

平成26年度研究・教育活動報告

【人間文化学科】

アーウィン マーク

(1) 研究成果

Mark Irwin: Rendaku Across Duplicate Moras, NINJAL Research Papers 7: 93-109. Vance, Timothy; Miyashita, Mizuki; Irwin, Mark: Rendaku in Japanese Dialects That Retain Prenasalization, Japanese/Korean Linguistics 21, ed. Nam, Seungho; Ko, Heejeong; Jun, Jongho. Stanford: CSLI Publications, pp. 33-42. Vance, Timothy; Irwin, Mark; Miyashita, Mizuki; Jordan, Richard: Rendaku Across Tōhoku Dialects, 人間文化研究機構連携研究「アジアにおける自然と文化の重層的関係の歴史的解明」最終年度成果報告書, pp. 153-162. Irwin, Mark & Vance, Timothy: Rendaku Across Japanese Dialects, Phonological Studies 18:19-26.

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業：言語学演習，英語コミュニケーション，英語(C)基盤

(3) 研究・教育活動に関するコメント

相沢 直樹

(1) 研究成果

@論文

鶯色の霧の彼方に —— 『その前夜』の翻訳と受容をめぐる試論，山形大学人文学部研究年報 第12号，平成27年（2015年）3月

@研究発表

- 芸術座の『生ける屍』と『さすらいの唄』—— 日本におけるトルストイ受容のもうひとつのかたち〈日本トルストイ協会 第15回「トルストイを語る会」(於：昭和女子大学)，平成27年（2015年）3月

(2) 教育・地域連携等の活動

@授業

ロシア語Ⅰ，ロシア語Ⅱ，ロシア文化論，ロシア語講読，欧米文化演習，文化交流史演習

@講演〈教育・地域連携等の活動

パネルディスカッション「カチューシャの唄大流行と大衆の時代」司会・パネラー

〈「カチューシャの唄」百年 第三部 (於：新宿区立 新宿歴史博物館 講堂)，平成26年（2014年）12月

(3) 研究・教育活動に関するコメント

浅野 明

(1) 研究成果

論文：近世ロシアの軍隊と国制に関する諸研究『中近世ロシア研究論文集』学会報告等

- 西洋史学会大会において、ロシア中近世史に関する4本の報告に、コメントを行った。(6月1日、立教大学)

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業：西洋中世史入門（歴史学）、スタートアップセミナー、ヨーロッパ史概論、ヨーロッパ史講義（一）、ヨーロッパ史演習（一）、ヨーロッパ史英書講読（一）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、上述の論文において、近世ロシア軍事史研究のための基礎的な研究を行った。西洋史学会では、テーマを全く異にする4本の報告にコメントを行い、研究上、大変に有意義であった。また教育面では、新しい名称に変更になったのを機に、内容をかなり大幅に改めた。

阿部 晃士

(1) 研究成果

(論文)

- 阿部晃士・前田忠彦、2015年3月、「社会調査の国際動向」、『社会と調査』, 14: 44-45.

(報告書)

- 阿部晃士・堀籠義裕・茅野恒秀、2015年3月、『復興に関する大船渡市民の意識調査－第2次横断調査報告書』岩手県立大学総合政策学部震災復興研究会社会調査チーム.
- 阿部晃士・堀籠義裕・茅野恒秀、2015年3月、『復興に関する大船渡市民の意識調査－パネル調査報告書』岩手県立大学総合政策学部震災復興研究会社会調査チーム.

(学会報告)

- Koji ABE, Hiroshi KOMATSU and Michio UMINO, 2014年7月, How Does Environmental Education Affect the Environmental Attitudes? XV III ISA World Congress of Sociology.
- Mikiko SHINOKI and Koji ABE, 2014年7月, The Effect of Environmental Education at School and Home on How Students Behave Towards the Natural Environment in Japan. XV III ISA World Congress of Sociology.
- 阿部晃士, 2014年7月, 「震災後の住民意識における復興と格差－大船渡市民のパネル調査から」第61回東北社会学会大会シンポジウム.
- 阿部晃士, 2014年9月, 「震災3年後への意識変化－岩手県大船渡市におけるパネル調査より」日本行動計量学会第42回大会特別セッション.

(2) 教育・地域連携等の活動

(担当授業)

- 現代社会学演習, 調査方法論, 社会調査実習, 卒業論文 (7名), スタートアップセミナー, 意識調査から見る現代社会 (基盤, 社会学) (以上, 山形大学)
- 調査の方法 (山形大学大学院)
- 社会統計学 (新潟大学人文学部)
- 社会意識論 (放送大学宮城学習センター)

(地域連携)

- 山形南高校出張講義 (2014年9月)
- 岩手県紫波町環境マイスター養成講座講師 (2014年9月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動では, 大船渡市における震災復興に関する調査と, 水俣市の環境教育に関する調査 (それぞれ科研費による共同研究プロジェクト) の分析結果を学会で報告するなど, 27年度の論文執筆に向けて準備を進めた。また, 量的社会調査 (主に面接調査) の手法にかんする共同研究を開始した (科研費・基盤(c), 代表者)。教育面では, 諸事情により年度途中から指導学生が増えるなど負担が大きくなったが, 予定どおり卒業論文を執筆させることができた。

新宮 学

(1) 研究成果

報告: 「東アジア都城史からみた中世都城平泉とその都城空間」 「平泉の文化遺産」の拡張登録に係る意見交換会(3) —平泉の都市領域と後背地について— 岩手県教育委員会等 2015年3月10日 (一関市)

海外調査: 河北・内モンゴル等都城調査 2014年8月22日～8月31日

(2) 教育・地域連携等の活動

- (担当授業名)

[学部] アジア史概論, アジア史講義 (一), アジア史演習 (一), アジア史史料講読 (一), スタートアップセミナー, 中国の歴史 (歴史学), マルコ・ポーロ『東方見聞録』を読む (教養セミナー), 東洋史概論 (一) (地域教育文化学部兼任), 卒業論文指導

[大学院] 東アジア近世史特論 I 東アジア近世史特別演習 歴史文化特別研究 II

- 地域貢献・学会活動

高校訪問: 9月 山形市内の高校1校を訪問

教職免許状講習 (高校地歴・中学社会) 「東アジアからみた世界史」 8月6日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 学生の教育では, 1名院生の修士論文指導と転出した歴史学教員の学生もあわせて4名の学生の卒論指導を行った。また東北大学大学院文学研究科に提出された博士論文の審査委員を担当

した。

- 4月に設置された小白川キャンパス国際センター長として、留学支援室とセンター運営委員会との調整等に当たった。

池田 光則

(1) 研究成果

(a) 担当授業

- 学部専門教育科目：言語学概論，言語学特殊講義，言語学演習，ラテン語Ⅰ，ラテン語Ⅱ，ラテン語上級
- 基盤教育科目：言語学概論（言語学），言語学とその周辺領域（言語学），英語，スタートアップセミナー
- 大学院：言語学特論，言語学特別演習

(b) 卒業論文指導テーマ

- 口コミサイトから見る現代敬語の使用傾向について

(c) 出張講義

- 「ことばの意味を分析する—現代言語学の視点から」（山形県立楯岡高等学校 大学等進学説明会（模擬講義），2014年10月）

(2) 教育・地域連携等の活動

(3) 研究・教育活動に関するコメント

石澤 靖典

(1) 研究成果

〔翻訳〕・（共訳）ジオルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』第3巻，森田義之，越川倫明，甲斐教行，宮下規久朗，高梨光正監修，中央公論美術出版，2015年2月

(2) 教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕

学部専門科目：美学・芸術学特殊講義，芸術文化演習（一），表象文化演習，基礎講義（文化解釈学），表象文化講義，芸術文化演習（二），芸術文化実習

大学院科目：美学・芸術史特論，美学・芸術史特別演習

基盤教育科目：スタートアップセミナー，美術の歴史，西洋美術鑑賞入門

〔卒業論文〕

- 島成園《無題》（1918）の痣の表現と自画像に関する考察
- 広告における社会的メッセージ—広告に見る死の表象—

〔修士論文〕

- 1660年代におけるムリーリョの教会装飾—サンタ・カリダート聖堂連作を中心—

〔地域連携〕

- 「レオナルド・ダ・ヴィンチとフランス・ルネサンス美術の開花」, NHK 文化センター郡山, 一日講座, 平成26年7月26日
- 「バロック美術への誘い—描かれた女性の聖と俗」, 山形美術館, 山形美術館開館50周年記念「ヨーロッパ絵画展—バロックから近代へ」記念講演, 平成26年12月24日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では, ヴァザーリ『列伝』の翻訳が一段落し, 芸術家の歴史叙述について考えを深めることができた。教育面では, 初めて修士論文の指導を担当し, 至らぬ点多々あったが, 論文としては一定以上の水準に達したように思う。

伊藤 晶文

(1) 研究成果

〔学術論文等〕

- 吉田明弘・佐々木明彦・大山幹成・箱崎真隆・伊藤晶文 (2014) : 晩氷期の鳥海山における植生復元およびグイマツの立地環境. 植生史研究, 23, 21-26.
- 松本秀明・伊藤晶文 (2014) : 七北田川下流域の地形変化と山王遺跡—貞観地震津波来襲時の古地形の復元—. 宮城県文化財調査報告書第235集 : 「山王遺跡VI—多賀前地区第4次発掘調査報告書—」, 199-203.
- 伊藤晶文 (2015) : 庄内砂丘北部におけるクロスナ層形成前後の砂丘砂の特徴. 山形大学歴史・地理・人類学論集, 16, 29-38.

〔学会発表〕

- 伊藤晶文 (2014) : 庄内砂丘北部におけるクロスナ層形成前後の砂丘砂の特徴. 2014年5月. 2014年度東北地理学会春季学術大会.
- 松本秀明・熊谷真樹・吉田 航・伊藤晶文・前川聡美 (2014) : 仙台平野北部荒井地区の大洪水痕跡とそれを取りまく弥生時代の津波堆積物. 2014年5月. 2014年度東北地理学会春季学術大会.
- 小岩直人・武田 開・葛西未央・伊藤晶文・松本秀明 (2015) : 宮城県野蒜海岸における2011年東北地方太平洋沖地震津波後の地形変化の定量的把握の試み. 2015年3月. 2015年日本地理学会春季学術大会.

(2) 教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕

(前期) 環境地理学概論, 環境地理学演習, 環境地理学調査実習, 人間文化入門総合講義 (分担), 地図を読む (教養セミナー)

(後期) 地圏環境論, 地圏環境論演習, 自然地理学 (共生を考える・人間を考える) [工学部フレックスコース]

〔地域連携〕

国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員 (東北地区)

山形仙台圏交流研究会への参加

(3) 研究・教育活動に関するコメント

国内では、海岸砂丘の形成史と、巨大津波による地形変化や堆積物に関する研究を実施した。海外（ペルー）では、ナスカ台地の踏査を行い、来年度以降の観測調査に関する基礎情報を得た。赴任後、指導教員として初めての卒論生を無事に送り出すことができた。

伊藤 豊

(1) 研究成果

〔論文〕

「宣教と文明化ーR・アンダーソンの戦略」(『山形大学人文学部研究年報』, 第11号, 山形大学人文学部, 2014年): pp. 87 -105

(2) 教育・地域連携等の活動

(担当授業)

〔基盤教育〕

- ・前期: 英語R (工, 中級), 英語R (人文, 上級)
- ・後期: 英語R (医・農, 上級), 英語R (地教, 上級), 英語C (工, 初級)

〔人文学部〕

- ・前期: スタートアップセミナー, 比較文化概論
- ・後期: グローバル文化学基礎, 文化交流史講義, 比較文化演習

〔大学院〕

- ・現代外国語(英語)Ⅱ, 比較文化論特論Ⅰ, 比較文化論特別演習

(出張講義)

千厩高校(岩手, 9/26), 仙台三桜高校(宮城, 10/21)

(その他)

異文化間コミュニケーションⅠ(フィリピン, セブ島)の企画と引率

(3) 研究・教育活動に関するコメント

第21回新島研究論文賞(2014年)受賞。

大久保 清朗

(1) 研究成果

〔論文〕

1. 「『ザ・マスター』をめぐる六つの断片的考察」, 『ユリイカ』2015年5月号, 189-199頁。
2. 「境界と奈落——細田守『バケモノの子』」, 『ユリイカ』2015年9月臨時増刊号, 57-64頁。
3. 「映画の逆説, 逆説の愛——『浮雲』冒頭におけるドキュメンタリーからフィクションへの越境体験」, 『中央評論』第293号, 中央大学出版部, 2015年11月, 40-50頁。

〔翻訳〕

1. リチャード・シッケル『ステイーヴン・スピルバーグ レトロスペクティヴ』(南波克行と共訳), 西村書店, 2015年12月。
[書評, 映画評など]
1. 「現実こそ夢の世界のよう——『ドラえもん のび太と鉄人兵団』」(コラム「極私的偏愛映画」), 『山形新聞』2015年4月26日。
2. 『サンドラの週末』評, 『朝日新聞グローブ』5月17日。
 - ・「まさしく映画体験の寓意——『過去へ旅した女』」(コラム「極私的偏愛映画」), 『山形新聞』2015年6月7日。
3. 「輪郭の定まらない生刻む——『王立宇宙軍 オネアミスの翼』」(コラム「極私的偏愛映画」), 『山形新聞』2015年7月19日。
 - ・「響く哄笑は神の嘲笑か——『アマデウス』」(コラム「極私的偏愛映画」), 『山形新聞』2015年8月30日。
4. 『バードピープル』評, 『朝日新聞グローブ』2015年9月20日。
5. 「人間の時間, 惑星の時間——パトリシオ・グスマン『真珠のボタン』」, 『スプートニク』山形国際ドキュメンタリー映画祭, 2015年10月, 10-12頁。
6. 「官能と恐怖に溺れる——『銀河鉄道の夜』」(コラム「極私的偏愛映画」), 『山形新聞』2015年10月11日。
7. 「死へ暴走する世界の狂気——『とむらい師たち』」(コラム「極私的偏愛映画」), 『山形新聞』2015年11月22日。
8. 「慎ましさと強かさ——『映画はやめる パトリス・ルコント, 自作を語る』」, 『キネマ旬報』2015年11月下旬号(1703号), 176-177頁。
9. 「「見る」ということの意味」, 『フリースタイル』第30号, 2015年12月, 33-35頁。
10. 『アンジェリカの微笑み』評, 『朝日新聞グローブ』2015年12月5日。
[口頭発表, 講演など]
1. 講演「成瀬巳喜男と水木洋子」, 市川市文学ミュージアム, 2015年4月25日。
2. 講演「そして何も変わらなかったのか」, 山形大学国際学術講演会「この都市(まち)に『風をあつめて』——70年代日本とポピュラーカルチャー」, 2015年12月17日。
3. 対談「『スピルバーグ その世界と人生』(西村書店)刊行記念 スピルバーグが描いてきたもの——テーマ・映像・物語——」, ジュンク堂書店池袋本店, 2016年1月22日。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

専門

映像学講義, 映像学演習, 表象文化演習, フランス語学演習, フランス語講読

基盤

フランス語Ⅰ, フランス語Ⅱ

[卒業論文]

「漫画『風の谷のナウシカ』における多重世界」

「広告における女性表象」

「二次創作におけるテンプレートとしての表象」

「『現金に手を出すな』の作品分析——ジャック・ベッケルの「昆虫学的」な側面からの考察」

「岩井俊二作品における女性イメージ」

「『アルジャーノンに花束を』における知性の表象」

「クリストファー・ノーラン論——『インターステラー』における過去への回帰」

「女性と幽霊～ゴシックロマンスにおける女性表象～」

[地域貢献]

- 山形国際ドキュメンタリー映画祭への協力（「山形大学・香港浸会大学 学生交流自主映画上映会」司会, 「ドキュメンタリーに見る現代台湾の光と影」コメンテーター, ディスカッション「嘘つきはドキュメンタリーのはじまり?」（「やまがたと映画」）司会, 講演会 ジャコモ・マンツォーリ氏「映画におけるフィクションとノンフィクションとの間」司会）
- ユネスコ創造都市ネットワーク（映画部門）申請の協力

(3) 研究・教育活動に関するコメント

南波克行氏との共訳, 山田宏一氏との共訳の準備に多くの時間を割いた。前者は年内に, 後者は来年に成果が出る。専門科目の映像学に関しては, 学生たちのために参考上映活動に積極的に取り組み, 一定の成果を得た。卒論は昨年と同じく人数が多かったが, 前年の指導への課題が部分的に解決できた。基盤科目のフランス語に関しては, 前年度末に東京で参加したフランス語国内スタージュの成果を反映することができた。

小熊 正久

(1) 研究成果

論文: 「フッサール時間論の生成」(『思索』第47号)

研究発表: 「大地の意味について—フッサールとブルーメンベルク—」

科研「自然観の変遷と人間の運命」研究会（東北大学文学部, H.26.8.3）。

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業: 「人間と世界との関係」（農学部・基盤教育）, 「西洋哲学史」, 「哲学講義（二）: 画像と知覚の現象学的分析」, 「西洋哲学講読」（前・後）, 「哲学演習（二）」（後）, 「ギリシア語 I, II」指導した卒論のテーマ: 「ベルクソン哲学における「記憶」と「私の身体」」, 「想像のはたらきについて（サルトル）」, 「サルトルによる画像及び芸術論の検討」, 「メルロ＝ポンティの身体論について」。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

科研の共同研究「表象媒体の哲学的研究—画像の像性と媒体性の分析を中心に—」において充実した研究会をおこなうことができた。

柿並 良佑

(1) 研究成果

論文

- ① 柿並良佑「哲学の再描——デリダ／ナンシー，消え去る線を描いて」, 『思想』, 査読無し, 岩波書店, 2014年, 12月号, 掲載決定。
- ② 柿並良佑「ジャン＝リュック・ナンシーの身体論——『コルプス』読解を中心に」, 『言語文化紀要』, 査読有り, 立命館大学言語文化研究科, 第26巻3号, 2015年2月。
- ③ 柿並良佑「ジャン＝リュック・ナンシーの「エコノミー」論」, 『N じ ょ (ニクス)』堀之内出版, 第1号, 2015年1月。

翻訳

- ④ ジャン＝リュック・ナンシー「パラレルな差異 (ドゥルーズ&デリダ)」大池惣太郎・柿並良佑共訳, 『現代思想』青土社, 2014年, 12月号。
- ⑤ ジャン＝リュック・ナンシー「「救済のエコノミー」についての注記」, 『N じ ょ (ニクス)』堀之内出版, 第1号, 2015年1月。

(2) 教育・地域連携等の活動

平成27年4月に着任のため, 該当事項なし

(3) 研究・教育活動に関するコメント

表象文化論分野での研究を継続するとともに, 東北出身の作家研究や「東北学」などの隣接分野への関心を深めていきたい。

許 時嘉

(1) 研究成果

【著書】

- ・許時嘉 (単著), 『明治日本の文明言説とその変容』, 日本経済評論社, pp.1-362, 2014年11月。

【学会発表】

- ・許時嘉, 「新天地における詩料への欲望——明治期の海外漢詩創作をめぐって」, 日本比較文学学会2014年度東北大会, 弘前市, 2014年11月1日。

【書評 (招待原稿)】

- ・許時嘉, 「書評 松田京子『帝国の思考——日本「帝国」と台湾原住民』」, 『日本学報』34, 大阪大学大学院文学研究科日本学研究室, 2015年3月, pp.185-191。

【総論】

- ・許時嘉「植民地研究から「文明」を考えよう」, 雑誌『週刊読書人』, 株式会社読書人, コラム「連載ニューエイジ登場」, 2015年1月30日, 3面。

(2) 教育・地域連携等の活動

基盤教育：初修中国語Ⅰ, 初修中国語Ⅱ

専門教育：比較文化概論（共同担当）、中国文学講義（共同担当）、国際文化概論（共同担当）、
日中交流史演習、現代中国論

「2014年度異文化間コミュニケーションⅠ」台湾引率分担（2014年8月24日～9月7日）

2014年度台湾師範大学山形研修コーディネイター（2015年2月8～15日）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

科研費「若手研究B」（2014年4月～2017年3月）と研究成果公開促進費（学術図書）を獲得し、
研究、教育において大いに努力した。

清塚 邦彦

(1) 研究成果

（論文）

- ・「フィクションの言語行為をめぐって：G・カリーの分析への批判的論評」、『山形大学紀要
（人文科学）』、第18巻2号、（2015年2月）、1-28頁。

（その他の研究活動）

日本科学哲学会 評議員

日本哲学会 『哲学』編集委員

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業

（基盤教育）

「哲学ってどんなこと？（哲学）」（前・後期）

（専門教育）

「論理学概論」（前期）、「哲学概論」（後期）、「応用倫理学演習」（前期）、「情報記号論」（後期）、
「現代応用倫理」（後期）、「記号論演習」（後期）

（大学院）

「英米哲学特別演習」（後期）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

小泉 有紀子

(1) 研究成果

（論文）

小泉 有紀子「大学共通教育英語におけるライティング授業の教育効果について－主観的・客観
的尺度から－」東北英語教育学会研究紀要第35号 pp.31-40

（学会発表・講演）

小泉 有紀子 文理解においてイントネーションや文脈が果たす役割：英語母語話者・日本人英
語学習者の作用域関係の理解を中心に 関西学院大学大学院言語コミュニケー

ション文化学会 (招聘)

小泉 有紀子 日本人英語学習者による曖昧構造の解釈方略について—作用域関係の処理における韻律や文脈情報の役割— 第40回全国英語教育学会 徳島研究大会 口頭発表
「山形大学における英語教育改革と TOEIC テストの活用 IIBC セミナー 大学における TOEIC 4 技能の活用法」事例発表 (阿部 宏慈・小泉 有紀子)

(2) 教育・地域連携等の活動

(担当授業)

英語(C)・英語(R) (基盤教育)

実践英語 (一)

基礎講義 (言語)

異文化コミュニケーション実習 オーストラリア・ケアンズ語学研修の引率

「キャリア形成とワークライフバランス (ウーマン・オブ・ヤマガタ) 招待講師

(地域連携等)

山形県東南置賜地区中学校・高等学校英語弁論大会審査員

山形大学公開講座：グローバル時代への挑戦～等身大の留学体験～ 講師「イギリスとアメリカ、どっちが好き？—留学生目線の超個人的英米言語文化比較」

TOEIC Newsletter No.121 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)「山形大学の基盤教育」インタビュー

人文学部リーフレット「国際舞台で活躍する教員紹介」に掲載

寺子屋子ども大学 英語教室「Let's play in English!」担当

(3) 研究・教育活動に関するコメント

科学研究費 基盤(C)の1年目として心理言語学の研究を進めたほか、英語教育研究も進めることができた。学部の公開講座における講演や異文化コミュニケーション実習の引率としてオーストラリアに同行し、学生の成長に触れた経験も貴重なものとなった。

合田 陽祐

(1) 研究成果

(論文)

合田陽祐「アルフレッド・ジャリによる科学的言説の受容について——『パタフィジック学者フォストロール博士の言行録』の場合——」, 『レットル・フランセーズ』, 上智大学フランス語フランス文学会紀要編集委員会, 第34号, 29-40頁, 2014年7月。

合田陽祐「アルフレッド・ジャリによる「反対物の同一性」——『反キリスト皇帝』と『昼と夜』における登場人物の構築について——」(原文フランス語), 『フランス語フランス文学研究』, 日本フランス語フランス文学会学会誌編集委員会, 第105号, 113-128頁, 2014年8月。

合田陽祐「アルフレッド・ジャリの『砂時計覚書』を読む——テキストとイメージの関係を中心に——」, 『フランス語フランス文学』, 慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会, 第59号, 67-94頁,

2014年10月。

(口頭発表)

合田陽祐「アルフレッド・ジャリの最初の「書物」——『砂時計覚書』を読む」, 日本マラルメ研究会総会, 於お茶の水女子大学, 2014年5月24日。

合田陽祐「『小雑誌』から見る世紀末文学場の変容——『メルキュール・ド・フランス』の批評欄を中心に——」, 関西シュルレアリスム研究会, 於大阪大学豊中キャンパス, 2015年2月1日。

(翻訳)

合田陽祐(単訳), ミカエル・デブレ(著)「乗り越えがたい距離——『コンスタンチノーブル』における都市のエクリチュール」(原文フランス語), 『テオフィル・ゴーチエと19世紀芸術』所収, 澤田肇, ミカエル・デブレ, 吉村和明(編), ぎょうせい, 2014年5月。

(2) 教育・地域連携等の活動

教育, 地域連携等の活動

授業:(語学) フランス語Ⅱ(医学部, 工学部, 地域教育文化学部, 法経政策学科), (専門) フランス文化論

フランス語では, 文法中心の授業を避け, 課題を通じて, 会話やコミュニケーションの要素を積極的に取り入れた。

また文章を読ませることを通して, 発音矯正をこまめに行った。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

科学研究費「若手(B)」の課題研究を継続して行った。

アルフレッド・ジャリ全集の翻訳作業を進めた。

フランス語版ジャリ全集(*Œuvres complètes d'Alfred Jarry*)の校訂作業を進めた。

上智大学フランス語フランス文学会の編集委員を務めた。

希望者2名にフランス語の個別指導を行った。

坂井 正人

(1) 研究成果

[口頭発表]

1. 「ナスカ社会と地上絵の終焉」(坂井正人) 公開フォーラム アメリカ大陸古代文明の神秘のベールをはがす。法政大学市ヶ谷キャンパス, 2014年4月19日。
2. Proyecto de Investigación Arqueológica Líneas y Geoglifos de las Pampas de Nasca
Congreso Arqueología Peruana (Masato Sakai, Jorge Olano) Ministerio de Cultura del Perú, 2014年8月22日
3. Let's identify birds in the Nasca lines! (Masaki Eda, Takeshi Yamasaki and Masato Sakai), 26th International Ornithological Congress. Rikkyo University, Tokyo, 2014年8月23日
4. Translocation and ceremonial practices of the Nasca culture based on "standard" analysis of bird remains from the temples of Cahuachi, Nasca (4th-5th century AD) (Masaki Eda, Masato Sakai, and

- Giuseppe Oreficci), International Council for Archaeozoology 12th Conference, Centro de Congresos y Convenciones, San Rafael, Mendoza, Argentina. 2014年9月23日.
5. 世界遺産ナスカの地上絵に関する学術研究と保護活動 (坂井正人). 文化遺産国際協力コンソーシアム, 東京文化財研究所. 2015年1月19日.
 6. Paisaje, geoglifos y cerámica en las Pampas de Nasca, costa sur del Perú (Masato Sakai). Simposio Internacional “La producción de los espacios rituales en las regiones de la zona sur de los Andes, Campus Innovation Center, Tokyo. 2015年2月11日.
 7. Geoglyphs and Landscape at the Nasca Pampa, South Coast of Peru. (Masato Sakai). Middle American Research Institute’s Brown Bag Series (招待講演). Tulane University, USA. 2015年3月9日.
 8. Las Investigaciones Académicas y Actividades de Protección de los Geoglifos de Nasca. (Masato Sakai). Simposio Internacional “Protective Activities and Investigación on World Heritage Site “The Lines and Geoglyphs of Nasca”, Campus Innovation Center, Tokyo. 2015年3月15日
 9. Landscape and Social relation at Prehispanic Nasca, South Coast of Peru. (Masato Sakai), Nasca Roundtable Conference 2015, Yamagata University. 2015年3月24日
- [著書・論文等]
1. 『マヤ・アンデス・琉球 環境考古学で読み解く「敗者の文明」』(青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広土) 朝日選書, 1-262.2014年
 2. 『文明の盛衰と環境変動: マヤ・アステカ・ナスカ・琉球の新しい歴史像』(青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広土 (編著)) 岩波書店, 1-256.2014年
 3. Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca (Sexta Temporada). (Masato Sakai, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto), 179p., Ministerio de Cultura del Perú, Lima, 2014.
 4. Informe Final del Proyecto de Investigación Arqueológica de las Líneas y Geoglifos de la Pampa de Nasca (Séptima Temporada). (Masato Sakai, Yoshimitsu Ccoyllo, Jorge Olano, Yuichi Matsumoto, Atsushi Yamamoto), 933p., Ministerio de Cultura del Perú, Lima, 2014.

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業] 「アンデス考古学(文化論)」, 「文化人類学入門(文化論)」, 「基礎講義(文化動態論)」, 「文化動態論(人類)」, 「文化人類学概論(1)」, 「文化人類学概論(2)」, 「文化動態論演習」, 「文化人類学演習(4)」, 「文化人類学実習」

[卒業論文] 11名, [修士論文] 2名 (内外国人1名)。

[地域連携]

1. 「山形大学のナスカ地上絵研究」NHK 文化センター仙台 (山形大学人文学部人間文化学科とNHK 文化センター仙台の提携講座) 平成26年4月26日.
2. 「ナスカ地上絵」, 公益社団法人長井教育会・記念講演会, タスパークホテル, 平成26年6月28日.
3. 「古代アンデス文明とナスカ地上絵」ふるさと共生塾 (東根市), 東根公民館ホール, 平成26年10月5日.
4. 「山形大学のナスカ地上絵研究: 2014年度までの成果より」, 山形県立産業技術短期大学校,

平成26年10月15日.

5. 「山形大学のナスカ地上絵研究」北里大学同窓会山形県支部, ホテルサンルート山形, 平成26年11月15日.
6. Estudios recientes de las geoglifos de Nasca por Universidad de Yamagata, Embajada de Perú en Japón, 平成26年11月24日.
7. 「世界遺産ナスカの地上絵に関する学術研究と保護活動」公開フォーラム:世界文化遺産「ナスカの地上絵」の研究と保護をめぐる国際協力, 国立民族学博物館, 平成27年3月19日.
8. 「世界遺産ナスカの地上絵に関する学術研究と保護活動」公開講演会:地上絵とミイラ:ナスカにおける学術調査と遺跡保護, 山形大学, 平成27年3月22日.

(3) 研究・教育活動に関するコメント

「アンデス比較文明論」(科学研究費補助金・新学術領域研究)による共同研究がはじまり、ナスカ台地における現地調査を実施した。また米国(UCLA, Vanderbilt University)およびカナダ(McMaster University)からアンデス考古学の専門家を招聘して国立民族学博物館と共同で国際シンポジウムを実施した。さらには国際交流基金の助成によって、ナスカ研究者をペルーから招聘して、日本各地(東京・大阪・下関・山形)で公開シンポジウムや講演会を実施するとともに、円卓会議「Round Table Conference on Nasca」を開催した。また人文学部附属ナスカ研究所から国際学術雑誌 Peruvian Archaeology を発刊した。教育活動に関しては、講義と演習で世界の諸民族に関する事例(景観など)を検討することで、文化人類学の基本的な考え方、民族誌の読み方と議論の仕方について扱った。また実習では、山形市内の礼拝所をめぐる調査を開始した。

佐藤 清人

(1) 研究成果

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]「英語(R)」「英語(C)」「英米文学概論(二)」「英米文化講読」
[出張講義]青森県立青森南高等学校

(3) 研究・教育活動に関するコメント

[研究]日系アメリカ文学には「自伝」もしくは「自伝的作品」が多数ある。また、それはアメリカ文学の一般的特徴でもある。そうした観点から日系アメリカ文学とアメリカ文学の関係について考察している。[教育]日本人が英語を苦手とする原因のひとつは、英語と日本語の相違に関する認識が曖昧になっていることだと思われる。英語の授業では、両者の相違を明確にすることによって学生が英語の理解を深めるよう常に心がけている。

鈴木 亨

(1) 研究成果

研究発表「創造的逸脱表現の認可をめぐって—Think differentの構文分析」, 日本英文学会東北支

部大会 (於弘前大学, 2014年11月) .

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業: 英語(C), 英語(R), 英語学特殊講義, 日英対照言語学, 英作文 (中級), 教職実践演習 (英語), 英語語法論特論

模擬講義「Think different の言語学—文法と逸脱表現」(山形県立鶴岡南高等学校, 2014年10月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では, 文法と逸脱表現の関係について研究を進めた。教育面では, 複数の授業で時間外の課題として多読レポートを課し, 多面的に英語力を養成することに努めた。

摂津 隆信

(1) 研究成果

• 論文

(1) 摂津隆信: パフォーマティヴ理論とカール・ファレンティン喜劇 [査読あり]

(「山形大学大学院社会文化システム研究科紀要」, 山形大学, 第11号, 1-16頁, 2014年)

(2) 摂津隆信: 動く蠟人形 カール・ファレンティンの「パノプティクム」について [査読あり]

(「ワセダブレッター」, 早稲田大学ドイツ語学・文学会, 第22号, 45-62頁, 2015年)

• 研究発表

(1) 摂津隆信: 口頭発表 動く蠟人形 —カール・ファレンティンの「パノプティクム」と「リッターズペルンケ」について—

(早稲田ドイツ語学・文学会第22回研究発表会, 早稲田大学, 2014年9月)

(2) 摂津隆信: 口頭発表 郷愁という名のイリュージョン —カール・ファレンティンの喜劇『騎士ウンケンシュタイン』について—

(東北ドイツ文学会第57回研究発表会, 八戸ポータルミュージアムはっち, 2014年11月)

(2) 教育・地域連携等の活動

山形大学着任初年度ということもあり右も左もわからない状態だったが, 基盤教育における初修外国語, 人文学部における専門科目両方をなんとかやりこなしたという印象。地域連携活動については今後努力していきたい。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成26年度は比較的落ち着いて研究に取り組めた。授業準備にもそれなりに時間をかけられたので良かったと思う。今後も研究・教育に割く時間をなんとか確保していきたい。

十川 陽一

(1) 研究成果

• 論文

「奈良時代の下級官人把握—散位を通じて—」(『国史学』213, pp.1-27,2014年6月)

• 学会発表

「地方における律令官人制の展開と受容—勲位を中心に—」(三田古代史研究会, 2014年8月30日, 慶應義塾大学三田キャンパス)

(2) 教育・地域連携等の活動

平成27年度着任のため, なし。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

自身がこれまで進めてきた研究の視点を生かし, 出羽を中心とした東北地方をフィールドとした研究・教育についても精力的に進めてゆきたい。

高橋 真彦

(1) 研究成果

ポスター発表

Takahashi, Masahiko. 2014. On the existence of null complementizers: New evidence. *Formal Approaches to Japanese Linguistics 7 (FAJL 7)*. International Christian University.

口頭発表

Takahashi, Masahiko. 2014. On the ban on embedded nominative major subjects. *The 10th Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFLL 10)*. Massachusetts Institute of Technology.

(2) 教育・地域連携等の活動

前期: 三重大学(前任校)にて1年生用の英語科目を担当

後期: 英語(R) / 英語(C) / 実践英語(三)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

千葉 清史

(1) 研究成果

[論文]

- “Kants Ablehnung des apagogischen Beweises in der ‘Transzendentalen Methodenlehre’”, XXIII. Kongress der Deutschen Gesellschaft für Philosophie, Online Publikation, <http://miami.uni-muenster.de/Record/e38f8099-10b3-4dd9-bb90-f7d5707d6ab5>, 1-8.

- 「二世界解釈と二側面解釈:そもそも何が問題だったのか?」, 西洋近世哲学史懇話会(編), 『近世哲学研究』第18号, 1-35.

[研究発表]

- “Kants Ablehnung des apagogischen Beweises in der ‘Transzendentalen Methodenlehre’”, XXIII. Kongress der Deutschen Gesellschaft für Philosophie. Universität Münster, Münster (Germany).

2014/9/30.

- “An Idea of Philosophy of Archaeology”, Nasca Roundtable Conference 2015. Yamagata University, Yamagata. 2015/3/23.

(2) 教育・地域連携等の活動

ドイツ語 IA1/IIA1 (人文・理学部向け)

ドイツ語 IA2/IIA2 (工学部向け)

哲学講義 (一) : カント『道徳形而上学の基礎づけ』を読む

哲学演習 (一) : 科学哲学入門

卒論指導 : 3名

人文学部公開講座『グローバル時代への挑戦：等身大の留学体験』：「学問のために、なぜ海外なのか? : ボン大学 (ドイツ) 哲学科の場合」(6月16日)

高校訪問 : 3校

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成26年度は取得した科研費プロジェクト「超越論的論証：その本質と発展可能性」にかかわる研究を進めていった。ナスカ関連の研究も進行中である。

富澤 直人

(1) 研究成果

“Remarks on syntactically derived nominals,” Bulletin of Yamagata University (Humanities) 18,2,87-110.

(2) 教育・地域連携等の活動

コミュニケーションスキル (英語 R,C,CR), 言語学総合講義, 英語学特殊講義, 英語学特別演習
教員講習

大学院研究生指導

出張講義 (1校), 高校訪問 (1校)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

富田 かおる

(1) 研究成果

A Model Based on F1F2 Values for Native and Non-native Speakers' Speech, 山形大学人文学部叢書 VI

“Visualization of vowel space for language learning” Bulletin of Yamagata University (humanities) 18:2, 111-132.

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業 言語学特殊講義, 英語学演習, 言語学総合講義, 基礎講義(言語), 英語(R), 英語(C)
高等学校10校余にて, ことばの音に親しむ, の模擬講義実施

(3) 研究・教育活動に関するコメント

言語の生成を主なテーマとし, 特に発話の音響分析を基に, 英語母語話者と日本人英語学習者の母音特徴分析を行い, 母音空間視覚化の言語学習への応用について考察した。

中澤 信幸

(1) 研究成果

[論文]

- 小川尚義の著作に見る国語意識, 『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』11, pp.17-31, 2014年9月
- 日本語教育における台湾語音の活用 — 銘傳大学の日本語学習者を対象にした意識調査 —, 『銘傳日本語教育』17, pp.23-40, 2014年10月

[口頭発表]

- 「日台基本漢字」と「東アジア共通漢字」の可能性, 第十屆台湾語言及其教學國際學術研討會, 台湾・国立成功大学, 台湾語文学会, 2014年10月25日

[ポスター発表]

- 台湾人日本語学習者の連濁意識について — 銘傳大学学生を対象として —, 中澤信幸, ティモシー・J・バンス, アーウィン マーク, レキシコン・フェスタ3 国立国語研究所 理論・構造研究系 プロジェクト成果合同発表会, 2015年2月1日

[辞典項目執筆]

- 「古濁略韻」「十一韻」「心空」「隋唐音図」, 佐藤武義・前田富祺他編『日本語大事典』, 朝倉書店, p.789, pp.1015-1016, p.1135, p.1158, 2014年11月

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

- 学部専門科目: 日本語学概論, 日本語学特殊講義, 日本語学講読, 近現代東アジア地域論(二), 言語学総合講義, 国語の教材分析B, 教職実践演習(中学校・高等学校)国語
- 大学院科目: 日本語史特論I, 日本語史特別演習
- 基盤教育科目: 日本語と他の言語との共生(共生を考える), 社会言語学入門(言語学) 遠い方言, 近い方言(地域学)

[卒業論文]

- 江戸期の読本における係り結びの乱れについて ~ 上田秋成『雨月物語』『春雨物語』を中心に ~
- 女性語の使用に関する一考察 — 『怪談牡丹燈籠』を中心に —
- 文学作品における敬語の使用 — 明治時代から昭和時代まで —

〔修士論文〕

- ・日本漢字音と現代中国呉方言との対照 —「唐話辞書」を資料として—

〔地域連携〕

- ・小川尚義の著作に見る国語意識, 台湾・銘傳大学応用日語研究所 (大学院) 特別講義, 2014年4月11日
- ・台湾語と日本漢字音, 台湾・文藻外語大学ワークショップ, 2014年4月24日
- ・台湾語と日本漢字音, 台湾・淡江大学日本語文学系碩士班 (大学院) 講演, 2014年5月27日
- ・台湾語と日本漢字音, 台湾・中國文化大学日本語文学系ワークショップ, 2014年5月29日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

前年度に引き続き, 「YU 海外研究グローイングアッププログラム」により, 台湾・銘傳大学に滞在して研究を進めた。また台湾の各所で講演・特別授業などを行った。帰国後は台湾での成果を論文, 口頭発表等で公開した。また台湾で培った知識を, 授業や論文指導等の教育面で生かすことができた。

中村 篤志

(1) 研究成果

学会・研究会発表

- 1, 「清朝モンゴル統治再考——モンゴル語日記史料を手がかりに——」満族史研究会第29回大会, 於: 東北大学片平さくらホール2階会議室, 平成26 (2014) 年5月31日 (土)
- 2, 「清代モンゴル遊牧社会と王公『支配』——所有, 移動, 調整をめぐって——」地域コンソーシアム (JCAS) 2014年度次世代ワークショップ『近現代モンゴルにおける人間=環境関係の変容』, 於: 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター大会議室, 平成27 (2015) 年1月11日 (日)
- 3, 「清朝治下モンゴルにおけるヒトとモノの移動」2014年度東北アジア研究センター共同研究シンポジウム「畜産物の流通にみるモンゴル高原のグローバリゼーション」, 於: 東北大学・川北合同研究棟1階ラウンジ, 2015年3月7日 (土)
- 4, 「遊牧と移住のあいだ——20世紀前半内モンゴル・フルンボイル社会の動態から」東北アジア研究センター・共同研究「東北アジアにおける辺境地域社会再編と共生様態に関する歴史的・現在的研究」シンポジウム「越境の東北アジア: 統治の動揺と地域流動化」於: 東北大学東京分室, 2015 (平成27) 年3月8日 (日)

(2) 教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕

主担当: 文化動態論 (アジア), アジア史講義 (二), アジア史演習 (二) 前後期, アジア史史料講読 (二), 近現代東アジア地域論 (一), 国際文化学演習, 基盤「モンゴル遊牧民を考える (基幹「人間を考える」)」, 基盤「モンゴル語の歴史 (教養セミナー)」, 北アジア史特論Ⅱ (大学院), 北アジア史特別演習 (大学院)

分担任当:基礎(文化動態論),基盤「グローバル社会に生きる君達へ」,基盤「遠い方言,近い方言」〔教育活動〕

- 1, 国際交流:人文学部異文化間コミュニケーションI in 台北のWGメンバーとして,企画・運営・現地引率を行った。国内では,説明会,事前学習会(3回),帰国報告会の企画・運営,現地では実習後半の引率を担った。現地学生と合同で主体的に街頭調査をさせる合同研究を,他の教員と共同で立案・実施した。
- 2, 2014年度人文学部公開講座「グローバル時代への挑戦——等身大の留学体験」の第5回講師を担当し,「モンゴル・ノスタルジーのゆくえ——留学で学んだモンゴル遊牧民の「本音」」と題する講演を行った(2014/06/23)。
- 3, 特別招待講師として舟橋學氏を招き,講演会「途上国の技術協力専門家として働く——相手国の人に囲まれて活動するには?」を企画,実施した(2014/12/4)。
- 4, 卒論指導10名,修論指導1名。

〔地域貢献活動〕

- 1, 出張講義:盛岡北高等学校・大学模擬講義において講義2014年6月19日
- 2, 出張講義:弘前高校・出前講義において講義2014年9月19日
- 3, 出張講義:大船渡高校・一日総合大学において講義2014年9月25日
- 4, 寒河江ロータリークラブ3月例会に招待され,「私のモンゴル・中国経験と山大人文学部の国際交流」と題する講演を行った(於グランデール寒河江。2015/03/12)。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

- 代表を務める基盤研究C「日記史料からみた清末のモンゴル王公と清朝支配」の調査・研究に従事した。
- 基盤研究A(海外調査)「東北アジアにおける辺境地域社会再編と共生様態に関する歴史的・現代的な研究」(代表:岡洋樹)の研究分担者として,最終年度の国際シンポジウムにおいて,成果を発表した。
- 教育面では,前年に引き続き国際交流や海外留学に関わる活動が主だった。まず前年同様,台湾実習における合同現地調査の企画・運営・引率を行ったほか,グローバル文化学コース向けの国際文化学演習を企画・運営し,アジアで働く駐在員やJICA職員を招待し,従来にない海外キャリアを意識した授業を行った。人文学部の公開講演会,基盤のグローバル関連授業,ロータリークラブなどでも国際交流に関する講演を行った。また,トビタテジャパンに応募する学生の書類作成や面接などのアドバイスを行い,東洋史から1名の合格者を出した。

中村 隆

(1) 研究成果

- 論文:「ディケンズ・メイヒュー・児童労働」,『東北ロマン主義研究』(第1号),平成26年12月,単著,pp.67-82(査読有り)
- 研究発表(シンポジウムのパネリストとして発表):『『オリヴァー・トウィスト』におけるホガース風の主題と変奏」,シンポジウム名:日本英文学会東北支部大会シンポジウム「オリジナル

とアダプテーション」, 開催地: 弘前大学, 発表年: 平成26年11月30日

(2) 教育・地域連携等の活動

基盤教育について。基盤教育の英語(R)および(C)では, 山形大学の学生ならば, ネット上で24時間アクセスが可能な ALC NeAcady2を予習と復習の基本教材とし, 速読 R とリスニング C の練習をした。また, グループワークによる音読, 発話練習を繰り返し行い, ナチュラルな英語のリズムを身体で覚えることを重点課題とした。

学部の専門教育について。英文学特殊講義では, 18世紀と19世紀の英文学を「子供」という観点から論じた。文学概論では, 「西洋と出会った日本人」としての夏目漱石のイギリス観を講じた。欧米文化演習では, 小池滋『ロンドン』を起点として, 各自学生が欧米の一都市をテーマとして掘り下げ, それに関する研究発表をした。英米文学講読では, エッセイを1つの文学ジャンルとして扱い, 現代英字新聞の文化的エッセイを語彙の獲得, 英文法・構文の高度な理解を目標として, 英語で精読した。暗記や音読にも積極的に取り組んだ。【地域連携等】・山形大学人文学部の重点校である山形県立北高等学校の高校訪問担当教員として, 学生の動向, 高校の教諭の意見などを調査(平成26年11月17日)・福島県立橘高等学校にて出張講義をした。題: 「エドガー・アラン・ポー「黄金虫」を読む」(平成26年10月29日) 受講生約60名

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面について。ヘンリー・メイヒューとディケンズがともに描いた19世紀中葉のロンドンの「児童労働」を, 「子供」, 「貧民学校」, 「センチメンタリズム」という視点から研究した。合わせて, ディケンズのフィクションが「子供」をセンチメンタリズムの枠組みで捉えるのに対し, メイヒューのノン・フィクションが, 統計データを駆使し, 児童労働を数値化していることを論じた。その研究成果は「ディケンズ・メイヒュー・児童労働」という論文に収められた。教育面について。基盤教育では, ALC NeAcady2というコンピュータ利用の英語学習を効果的に取り込むことができた。特に, 語学教育での復習の効用を理解させるために, 復習課題を大幅に増加した。授業では, 音読を繰り返し, 英語の音を身体的なリズムにおいて発話するような工夫をした。専門教育においては, 英文学特殊講義では子供と労働という観点で新しい局面からの視点が提供できた。文字情報を可視化するために, 視聴覚教材を効果的に利用した。文学概論では, 夏目漱石のイギリス体験を先行研究を踏まえて論じたが, 漱石を自己の研究課題としたのは今年度が初の試みだった。講義では, 質問コーナーを随時設け, 講義者の質問に対し, 回答を発言した場合, それを評価の点数に組み込むことをした。欧米文化演習では, 各自がテーマを発見し, それについて発表するという PBL 的取り組みをした。英米文学講読では, 積極的に音読と暗記を取り入れ, 英語を体感として学ぶ環境づくりをした。

西上 勝

(1) 研究成果

- ・論文: 「周亮工の『読画録』と『印人伝』について」(『書法漢学研究』第15号, 平成26年7月, 20~27頁)。

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業

研究科：中国中世文化論特論

専門教育：中国文学概論など

基盤教育：共通科目コミュニケーション・スキル2「中国語」

地域連携

前年度に引き続き、一般市民をも対象とする中国語検定試験（日本中国中国語検定協会主催）の山形試験場（人文学部を会場とする）の運営に、試験場責任者として参画した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成26年10月、京都・大谷大学を会場として開催された第66回日本中国学会大会・文学語学部会において、「『莊子』の寓話における演出的表現について」と題する研究発表の司会をつとめた。

福野 光輝

(1) 研究成果

○紀要論文

福野光輝・土橋美幸（2015）. 対人葛藤解決における間接方略の遍在性. 山形大学人文学部研究年報, 12, 1-20.

○学会発表

福野光輝（2014a）. マクロ公正感が公共事業への支持におよぼす効果. 日本社会心理学会第55回大会発表論文集, 369.

福野光輝（2014b）. 小学生保護者における大学生との葛藤懸念. 日本応用心理学会第81回大会発表論文集, 43.

福野光輝・森和彦（2014）. 「姿勢としての努力」と能力が報酬分配におよぼす効果. 日本心理学会第78回大会発表論文集, 233.

福野光輝・渡邊洋一（2014）. 大学1年生の自転車運転意識の変化. 東北心理学研究, 64, 25.

(2) 教育・地域連携等の活動

○担当授業

「研究活動推進のための特別軽減措置」の対象となったため休講とした。ただし、卒業論文指導は担当した。

○卒業論文指導

「初対面場面におけるアイコンタクトのタイミングと笑顔の有無が印象評価に及ぼす影響」

「コミュニケーション・スキルが精神的健康に及ぼす効果：被受容感と公的自意識との関連」

「セルフトークと要求水準がパフォーマンスに及ぼす影響」

「着やせ服と瘦身願望が似合いに及ぼす効果」

「個人の自立が信頼している友人との関係の捉え方に及ぼす影響：相互理解の感覚に着目して」

「製品の地域的制約が購買意図に及ぼす影響：希少性に着目して」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

福山 泰男

(1) 研究成果

- 研究発表

(2) 教育・地域連携等の活動

- 山形大学人文学部の重点校である山形県立北高等学校の高校訪問担当教員として、学生の動向、高校の教諭の意見などを調査（平成26年11月17日）。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本多 薫

(1) 研究成果

論文

- 1) 門間政亮, 本多薫: ワイドディスプレイにおける情報表示領域と作業領域の配置に関する検討, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第11号, p.33-41, 2014
- 2) Kaoru Honda et al.: Changes in Biological Data during Prolonged Use of a Learning Support System and the Effects of a Rest Break, Communications in Computer and Information Science, 435, p.455-460, Springer, 2014

学会発表

- 1) 本多薫, 学習支援システムを想定した学習での休憩時間の検討, 日本教育工学会第30回全国大会, 2014年09月19日~2014年09月21日, 日本教育工学会第30回全国大会, 岐阜大学 (岐阜県・岐阜市)
- 2) 高崎俊宏, 本多薫, 渡邊洋一: 拡張現実感におけるCGのサイズ推定に関する研究, 第10回日本感性工学会春季大会, 京都女子大学 (京都市), 2015年3月29日
- 3) 門間政亮, 本多薫: 作業環境とBGMが言語課題に及ぼす影響 - VDTと紙面による比較 -, 第10回日本感性工学会春季大会, 京都女子大学 (京都市), 2015年3月29日

著書

- 1) 渡邊洋一, 本多薫: 直線の地上絵は何を語るのか, 「青山・米延・坂井・高宮編者: 文明の衰退と環境変動」, 岩波書店, p.140-141, 2014年9月25日発行

(2) 教育・地域連携等の活動

授業:

(教養) 情報処理

(学部) 公務員対策セミナー, 人間文化入門総合講義, 人間情報科学概論, 基礎講義 (地域・人間), 情報処理演習, 情報科学演習, 情報科学実習, コンピュータ・ネットワーク論

(大学院) 人間情報科学特別演習

卒業研究の指導 (人間情報科学専修担当として指導) :

(a) 統計情報に基づく野球戦術とチーム作り

修士論文の指導 :

(a) 拡張現実感における CG のサイズ推定に関する研究

地域貢献活動等 :

(a) 日本人間工学会 理事・東北支部長・代議員, 東北支部役員

(b) 日本経営工学会 代議員, 東北支部運営委員

(c) 土木学会 地下空間研究委員会 心理小委員会 委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成26年度は、科研費 (学習支援システムの生体負担と休憩時間に関する研究), ナスカ地上絵に関する研究を情報科学の視点で進めた。また、教育としては、情報科学関連の講義を担当するとともに、共同で卒業研究および修士論文 (主査) の指導を行った。

松尾 剛次

(1) 研究成果

I. 著書 (共著 2)

1) 『仏教の事典』朝倉書店 2014年 4月20日 第68回毎日出版文化賞受賞

2) 遊学館ブックス『食から考える山形』～足もとの食を見つめながら～(助)山形県生涯学習文化財団 (共著), 2015年 3月

II. 論文 (2)

1. 「最上義光文書の古文書学 判物・印判状・書状」『山形大学大学院社会文化システム研究科紀要』11, 2014年 9月

2. 「叡尊教団の豊後・豊前国における展開」『山形大学歴史・地理・人類学論集 11』2015年 3月

III. その他 (新聞記事, 書評, 講演など) (6)

1 書評「大喜直彦著『神や仏に会おう時』」『山形新聞』2014年 5月11日

2 NHK ラジオ全国版「宗教の時間, 葬式と仏教」に出演 2014年 9月 7日 (8時30分 - 9時) 9月14日 (18時30分 - 19時)

3 書評「森謙二著『墓と葬送のゆくえ』」『山形新聞』2014年12月21日

4 書評「小山聡子著『親鸞の信仰と呪術: 病気治療と臨終行儀』」『宗教研究』p764-769 2014年12月

5 書評「五木寛之著『親鸞 完結編』」『山形新聞』2015年 1月18日

6 書評「高橋義夫著『保春院義姫』」『山形新聞』2015年 3月 1日

(2) 教育・地域連携等の活動

IV 学生指導 卒論 (15本)・修論 (2本) を指導

中世粟島の信仰についての一考察

中世における日本仏教と女性の関係についての一考察

中世武家家法に関する一考察—『宇都宮弘安式条』と宇都宮氏に注目して

妖怪文化の変遷—『画図百鬼夜行』を中心に

奈良絵本に関する一考察—新ルーヴアン大学所蔵作品を中心に—

奥州合戦再考

相模三浦一族に関する一考察—佐原氏と矢部禪尼に注目して

怨霊・御霊信仰に関する一考察

『女房官品』の基礎的考察

最上義光の庄内統治に関する一考

「中世武家法に関する一考察—『宇都宮家弘安式条』と宇都宮氏に注目して—

蒲生氏郷についての一考察—若松の城下町づくりを中心に—

御館の乱に関する一考察

明治天皇の東北巡幸に関する一考察—山形巡幸を中心に

神道の依り代に関する一考察

修論

鎌倉幕府將軍行列に関する一考察—行列内所役構成の変化に着目して

中世における祓の実態について—鎌倉幕府の行った祓を中心に—

V 地域貢献

山形学企画委員として山形学講座の企画を行った。また、本学都市地域学研究所の所長として山辺町と連携して、「山形偉人再発見プロジェクト」を行い、第4回安達峰一郎記念世界平和弁論大会などを実施した。本年、7月には、これまでの山形市への貢献に対して、山形市市制施行125周年記念市政功労賞（教育・文化部門）を授与された

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本年度は、日本史担当者が私一人となり、修論2本、卒論15本の指導をするはめになった。それゆえ、教育に多くの時間をさかざるをえず、単著の出版ができなかったことは大いに残念であった。しかし、7月に山形市市制施行125周年記念市政功労賞を授与された。さらに11月には共著の『仏教の事典』に対して第68回毎日出版文化賞が授与された。このように、これまでの業績が認められた実り豊かな年でもあった。

松本 雄一

(1) 研究成果

〈学会発表〉

Matsumoto, Yuichi, Jason Nesbitt, Yuri Cavero Palomino, y Edison Mendoza "Actividades rituales en las áreas circundantes al centro ceremonial Campanayuq Rumi". I Congreso Nacional de Arqueología, 20 de Agosto, 2014, Museo de la Nación.

松本雄一, ジェイソン・ネスビット, マイケル・グラスコック, ユリ・カベロ・パロミーノ, リ

チャード・バーガー

「アンデス形成期における黒曜石の流通と地域間交流：カンパナユック・ルミ遺跡出土黒曜石の蛍光X線分析から」古代アメリカ学会代19回大会，2014年12月7日，於名古屋大学。

〈シンポジウム〉

Matsumoto, Yuichi

Paracas en la sierra:

Una perspectiva desde Campnayuq Rumi. Simposio Internacional “Desarrollo y Cambio Social en las Sociedades del Costa Sur del Perú”, February 16, 2014, Nacional Museum of Ethnology, Osaka.

Matsumoto, Yuichi; Ritual Domestica?: Manejo del espacio ritual en el centro ceremonial de Campanayuq Rumi. Simposio Internacional “La Producción de los espacios rituales en las regiones de la zona sur de los Andes”, 11 de Febrero, 2015. 於 キャンパスイノベーションセンター。

(2) 教育・地域連携等の活動

〔担当授業〕

基盤教育：神殿と権力（人間を考える），インカ帝国への道（文化論）

学部専門教育：文化人類学概論（一），文化動態論（人類），文化人類学概論（二），文化人類学講義（二），文化人類学宗教史講読（二），文化動態論演習，文化人類学演習（三），文化人類学実習

大学院教育：人類学特論 I

(3) 研究・教育活動に関するコメント

「アメリカ大学院サバイバル生活：留学生の理想と現実」山形大学公開講座2014年6月19日
科研費 若手B，新学術領域研究の研究を行った。

宮腰 直人

(1) 研究成果

論文「勝田竹翁筆『富士牧狩』考：《曾我物語》研究序説」（「立教大学日本文学」111号，2014年1月）

(2) 教育・地域連携等の活動

平成27年4月に着任のため，該当事項なし

(3) 研究・教育活動に関するコメント

日本古典文芸研究の立場から山形及び東北の地域資料を活かした研究と教育を行っていきたくと考えています。

元木 幸一

(1) 研究成果

論文「ペテン歯医者と雄鶏合戦—ハンス・ゼーバルト・バーハム作《ケルミス大版画》のモチーフ—

フ分析一」『山形大学人文学部研究年報』第12号, 2015年, 21-41頁。

『宗教改革期のニュルンベルクにおける農民祝祭版画の総合的研究』(科学研究費報告書), 2015年, 1-42頁。

(2) 教育・地域連携等の活動

(授業)

基盤教育基幹科目「美術に見る男女の共生／競生／狂生」教養科目「笑顔の秘密—笑いの美術史 (芸術)」

人文学部専門科目「基礎講義 (文化解釈学): オムニバス」「芸術文化概論」「芸術文化特殊講義」「美学・芸術学演習」「美術史演習」「芸術文化実習」

大学院科目「表象文化論 (美学・芸術学) 特論Ⅱ」

(卒論指導)

「C・D・フリードリヒの廢墟表現」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では三年間の科研が終了し, なんとか報告書をまとめることができました。学生指導に関しては, 多忙故にやや手抜きになった観なしとしない。学生に申し訳なし。ただし, 多忙故にこそ, 学生との付き合いは楽しく, 結構熱がこもった授業になったのではないかと思う。

森岡 卓司

(1) 研究成果

[共著] 山形新聞社編『やまがた再発見』荒蝦夷 平成26年7月2日

収録エッセイ (単著)「[[田山花袋] わが「ふるさと」(p103~ p116), 「[[森英介]「アイロニーの地獄」に囚われて」(p245~ p263) を執筆

[記事]

1. 森岡卓司「やまがた再発見」210. 出羽ヶ獄文治郎, 『山形新聞』平成26年7月13日

2. 山新文学賞「選考経過」, 『山形新聞』平成27年1月25日, 平成27年2月15日, 平成27年3月15日

(2) 教育・地域連携等の活動

[出張講義]

宮城県佐沼高等学校 (平成26年7月17日)

秋田県立横手高等学校 (平成26年9月3日)

福島県立安積高等学校 (平成26年11月29日)

[公開講座]

1. 山形県高等学校文化連盟文芸専門部村山地区講習会 講師, 平成26年9月10日 山形大学小白川キャンパス

2. 森岡卓司「現地視察 一庄内の文学散歩」, 寒河江市立図書館「シリーズ山形の文学を探る」

第3回 平成26年10月14日, 鶴岡公園

[教員免許状更新講習]

1. 渡辺文生, 森岡卓司, 福山泰男「国語教材の研究」, 平成26年度教員免許状更新講習(中学校教諭(国語)・高等学校教諭(国語)対象)平成26年8月4日~8月6日 山形大学人文学部 [論文指導]

卒業論文5名

[授業担当]

「初期村上春樹の世界(文学)」ほか基盤教育科目3, 「日本文学演習」ほか専門教育科目7, 「日本近現代文化論特別演習」ほか大学院担当科目2(と特別研究)。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

上記の通り, 翌年以降の準備にあてた時間が多かったとはいえ, 研究活動が低調であったことを否めない。管理運営上の業務として, 広報委員会(HP部会, 学部サイト全面リニューアル), [全学に関わる業務] 1, [学部に関わる業務] 2+2を担当し, さらに改組に関わって複数のWGに加わったことの影響は大きかった(が, 次年度以降さらにこの業務が増大しようとは思ってこなかった)。

学会活動としては日本近代文学会東北支部運営委員, 日本比較文学会東北支部事務局長, 日本文芸研究会全国委員, 日本文学協会委員。

上記以外の教育活動として, 上記の他に, 平成23年度より実施している日本近代文学東北インカレゼミ(平成22年は山形大学単独の自主ゼミとして実施)を, 本年は山形県で主管校として開催, 学生が企画運営を担当する補助を行った。福島大, 東北大, 弘前大, 盛岡大, 東京大からの参加があった。

地域連携等の活動として, 山形大学が行う朗読コンテストの審査員を, 平成26年度もまた継続して務めている。また, 学部国際学術講演会「共振する東アジア4」のコメンテーターとして登壇した。また, 新設された映像文化研究所の運営委員となり, 松浦寿輝氏による開設記念講演会のコーディネートを大久保清朗准教授とともに担当した。

山崎 彰

(1) 研究成果

- 学会報告「19世紀ブランデンブルク土地貴族の農場経営と農法改革」(政治経済学・経済史学会秋季学術大会), 青山学院大学, 10月19日

(2) 教育・地域連携等の活動

- 基盤教育

「ヨーロッパ史における共生と環境」(基幹科目), 「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」(教養科目)

- 専門教育

「文化動態論基礎」「文化動態論(ヨーロッパ)」「ヨーロッパ史講義(二)」「ヨーロッパ史演習

(二)」「ヨーロッパ史英書講読 (二)」「卒業論文」。以上の他に山内勲東海大山形高元校長, コーエンズ久美子教授と「教職実践演習」を実施した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

山田 浩久

(1) 研究成果

著作

- 山田浩久 (2015) 『観光まちづくりによる中心市街地の再生』, 山形大学人文学部叢書 8, 総頁 375.
- Yamada, H. (2015) Spatial Characteristics of Land Evaluation in the Tokyo Metropolitan Area after the Great East Japan Earthquake. M. Hino and J. Tsutsumi eds, Urban Geography of Post-Growth Society, 159-178, Tohoku University Press.

招待論文

- 山田浩久 (2014) 「郊外開発を前提としたスマートグロースは可能か?? 山形県山形市を事例にして?」, NETT 86,12-15, ほくとう総研.

その他

- 山田浩久 (2015) 「東根市高齢化対策ビジネス研究会」, やまがた地域社会研究所ブックレット 1,22-25, 山形大学人文学部.

学会発表

- 山田浩久 (2014) 「宿泊客の行動類型から見た着地型観光の提案—山形県上山市の事例—」, 東北地理学会
- 山田浩久 (2014) 「人口減少下における地方零細都市の持続可能性—山形県東根市を事例にして—」, 東北地理学会
- 山田浩久 (2014) 「地価と土地生産性との関係に関する近年の動向」, 日本地理学会

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業

- 人文地理学概論, 地域構造論, 地誌学, 地域構造論演習, 都市地理学調査実習, 他生涯学習支援等
- 山形市定住自立圏地域計画講習講師
- 山形県教育センター, 小中学校教諭対象の GIS 講習講師
- 東根市商工会, 高齢化対策ビジネス研究会講師
- 山形大学人文学部オープンキャンパス模擬授業講師
- 2014年度関山街道フォーラム, パネリスト

学外の審議会, 委員会

- 国土交通省, 東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会委員
- 山形市都市計画マスタープラン研究会委員

- 山形市にぎわい拠点整備事業審査委員会委員長
- 長井市まちづくり基金審査委員会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

科研費による研究成果を著作として著すことができた。地域連携に関しては、COC事業の分野別研究として上山市に対する研究成果を著すことができた。また、現地学習を主体とする講義形式も軌道に乗り、特色のある授業を実践できるようになった。

山本 睦

(1) 研究成果

〈論文〉

「先史アンデスにおけるペルー北部チョターノ川流域社会の形成と変遷」, 国立民族学博物館研究報告39(4), 2015, p.511-574

〈学会発表〉

「アンデス文明形成期における神殿をめぐる人々の活動」, 日本文化人類学会第48回研究大会, 2014年5月18日, 幕張メッセ国際会議場

「ペルー北部地域の遺跡踏査：地域間ルート試論」, 古代アメリカ学会第19回研究大会, 2014年12月6日, 名古屋大学東山キャンパス野依学術交流館

(2) 教育・地域連携等の活動

(3) 研究・教育活動に関するコメント

8月～9月には、「神殿をめぐる活動と地域間交流の相関からみたアンデス文明形成期の社会動態（科学研究費補助金・若手A）」によって、ペルー北部で調査・研究をおこなった。また、12月～3月にかけては、人文学部附属ナスカ研究所に滞在し、「アンデス比較文明論（科学研究費補助金・新学術領域研究）」によって、ナスカ市近郊で調査・研究を実施した。

平成26年10月に本学に着任いたしました。

吉井 文美

(1) 研究成果

[著書]

①吉井文美「日本の華北支配と開瀾炭鉱」久保亨・波多野澄雄・西村成雄『日中戦争の国際共同研究5 中国の戦時経済と変容する社会』（慶應義塾大学出版会, 2014編）, 205-228頁。

[論文]

①吉井文美「日中戦争初年の天津海関」『東京大学日本史学研究室紀要』18号, 2014年, 73-90頁。

②吉井文美「中国在来秩序の改変と帝国日本の膨張 一一九三一～一九四一年一」(博士学位論文, 東京大学)。

[学会報告]

- ①吉井文美「中日戦争下の江海関（日本語訳：日中戦争下の上海海関）」、第十五届两岸三地歴史学研究生論文発表会（中国、鄭州大学）、2014年10月。
 - ②吉井文美「日中戦争期揚子江航行権をめぐる攻防」、中国現代史研究会例会（東京、東洋文庫）、2015年1月。
 - ③吉井文美「20世紀30年代的日本外務省与文化事業（日本語訳：1930年代における日本外務省と文化事業）」、第二屆抗日戦争史青年学者研討会（中国、西南大学）、2015年3月。
- [総説・書評]
- ①（総説）「回顧と展望（日本近現代 外交二）」『史学雑誌』123巻5号、2014年、179-182頁。
 - ②（書評）熊本史雄著『大戦間期の対中国文化外交 外務省記録にみる政策決定過程』、『歴史評論』、769号、2014年、100-104頁。
 - ③（新刊紹介）外務省編纂『日本外交文書 第二次欧州大戦と日本』第二冊上下、『史学雑誌』、123巻4号、2014年、625-626頁。

(2) 教育・地域連携等の活動

[授業]

（後期）日本史講義（一）／日本史演習（一）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成26年10月に本学に着任いたしました。

ライアン スティーバン

(1) 研究成果

[発表] (2014.11) Featured Speaker: Recognizing the Hidden Bias in Cross-Cultural Diplomacy. The 5th Asian Conference on Media and Mass Communication (IAFOR) 大阪市.

(2014.11) Linking Intercultural Communication Theory and Cross-Cultural Diplomacy to Highlight Cultural Bias, International Journal of Arts and Sciences (IJAS). University of London, UK.

(2014.5) Keynote speaker: Recognizing the Affect of Hidden Cultural Bias in Cross-cultural Communication. The 2nd International Conference on Social Science and Management. (ICSSAM 2014). 京都市

(2014. 3). Journey to the American Revolution of 1776. Japan Association of Language Teachers (JALT). Yamagata city, Japan, Yamagata Chapter.

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業：英語コミュニケーション（上級）、英作文（上級）、英語(C)、英語(R)、異文化間コミュニケーション I、II

(3) 研究・教育活動に関するコメント

My research interest intersects with Intercultural Communication and Cross-Cultural Psychology with

emphasis on international relations.

渡辺 文生

(1) 研究成果

澤恩嬉・中林幸子・渡辺文生「初級日本語学習者を対象とした交流型遠隔授業における教室の役割—継続的なつながりをめざして—」ICJLE2014, University of Technology, Sydney, Australia, 2014.7.11

Mitsuko Takei, Fumio Watanabe, Etsuko Yoshida, Miho Fujiwara, The Role of Reactive Tokens in Storytelling as Feedback for Lexical Choices in Subsequent Storywriting, AILA 2014, Brisbane, Australia, 2014.8.15

渡辺文生・武田知子・川村よし子「文型分析ツール開発に向けた接続助詞的形式名詞の研究 —用例抽出ルールの設定と運用実験—」2014 CAJLE Annual Conference, Montreal, Canada, 2014.8.20
《出版物》

渡辺文生・武田知子・川村よし子(2014)「文型分析ツール開発に向けた接続助詞的形式名詞の研究 —用例抽出ルールの設定と運用実験—」『2014 CAJLE Annual Conference Proceedings』pp. 192-199. カナダ日本語教育振興会

渡辺文生(2015)「講義Gのインタビューの講義テーマに基づく分析 —表現検索による分析と「情報伝達単位(CU)の残存との対応—」『大学学部留学生による講義理解の表現類型に関する研究』2014年度特定課題研究助成費(研究代表者:佐久間まゆみ)研究成果報告書 pp. 186-197.

(2) 教育・地域連携等の活動

担当授業は、基礎講義(言語)・言語学総合講義・日本語学文法講義・日本語学特殊講義・日本語学講読・日本語学演習・日本語(二)《以上学部専門科目》, 日本語意味論特論・日本語意味論特演・特別研究《以上大学院科目》, スタートアップセミナー, ことばの分析(言語学)・日本語上級2・遠い方言, 近い方言《以上基盤教育科目》。教員免許状更新講習の講師を務めた(2014.8.4)。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、研究分担者として参加した基盤(C)の科学研究費プロジェクトのほか、共同研究の成果を中心に学会発表を行った。教育活動については、日本語学の学部生および院生の指導を行ったが、卒業・修了年度の学生はいなかった。

渡辺 将尚

(1) 研究成果

学会発表:「ヒトラーとピブーン, 2つの大国化主義」(平成26年11月1日, 弘前大学)

(2) 教育・地域連携等の活動

(3) 研究・教育活動に関するコメント

渡邊 洋一

(1) 研究成果

(口頭, ポスター)

- Use of the lines and the line centers in locomotion on Nasca Pampa: An analysis of human visual information processing using wearable camera. Tadasuke Monma, Kaoru Honda, Yoichi Watanabe, Round Table Conference on Nasca, 2015. 山形大学, 2015.3.23.
- 福野光輝・渡邊洋一「大学1年生の自転車運転意識の変化」東北心理学会第68回大会(秋田大学) 2014.11.1

(文献).

- 渡邊洋一・本多薫「コラム:直線の地上絵は何を語るのか」, 青山和夫・米延仁志・坂井正人・高宮広土(編)「文明の盛衰と環境変動 - マヤ・アステカ・ナスカ・琉球の新しい歴史像」岩波書店, 2014.9.25.

(2) 教育・地域連携等の活動

(教育)

教養科目「認知心理学入門」(前・後期各2単位), 心理学講義(一)(後期2単位), 認知心理学演習(前・後期各2単位), 心理学実験(前期2単位), 心理学特殊実験(前・後期各2単位), 心理学情報処理実習(前期2単位)

(地域・高大連携)

- 出張講義 福島県立福島東高校(2014.7.10)
- 大学見学への対応 大阪府立春日丘高校3年生1名の大学見学(ナスカ研究)に対応(2014.8.20)
- 日本自動車連盟(JAF)山形支部交通安全実行委員会委員(委員長). 平成19(2007)年度～

(3) 研究・教育活動に関するコメント

【法経政策学科】

赤倉 泉

(1) 研究成果

特になし

(2) 教育・地域連携等の活動

【教育】

教養教育科目: 中国語, 教養セミナー

専門教育科目: アジア政治論, アジア政治論演習

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面はこれまで通り毛沢東時代の政治と中国の民主化運動をテーマとした研究を進めたが, 論文として成果が出せなかったのが残念である。教育面では, 教養セミナーで山形市の市政という身近なテーマを取り上げて学生に好評だった。社会連携は不十分だったので頑張りたい。

阿部 未央

(1) 研究成果

- ・(判例評釈)「阪急トラベルサポート(派遣添乗員・第二)事件(最二小判平26・1・24後掲79頁)添乗員に対する事業場外労働のみなし制適用の可否」労働法律旬報1814号36-40頁(旬報社, 2014年4月)

(2) 教育・地域連携等の活動

〔教育〕労働法, 公務員講座 〔地域連携〕・山形県医療審議会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2014年3月から2014年9月までの半年間, YU グローイングアッププログラム海外派遣により, イギリス・オックスフォード大学にて在外研究をする機会に恵まれた。また, 「イギリス・オランダにおけるパートタイム労働法制」(科研若手B)の最終年度であり, 在外研究中に, 文献読解に加え, イギリスの研究者や関係団体にヒアリングすることができ有益な示唆を得られた。帰国後再会した労働法ゼミでも, 熱心で活発な議論が行われ, そこから教育・研究における様々なヒントを得られている。

池田 弘乃

(1) 研究成果

【論文】「フェミニズム法理論における立法の復権」, 井上達夫編『立法学のフロンティア 第1巻 立法学の哲学的再編』(2014年7月, ナカニシヤ出版), 103-125頁。

【研究発表】「フェミニズムと立法府:クオータ制度の正当化をめぐる」(本学法律・政治系研究会〔11月12日〕)。

(2) 教育・地域連携等の活動

【担当科目】私法入門, 法哲学, 法哲学演習, 法経政策専門基礎演習。

【社会連携等】出張講義(新潟県立佐渡高等学校〔8月21日〕, 山形県立米沢東高等学校〔10月21日〕), 山形大学紀要(社会科学)編集委員, 山形県男女共同参画審議会委員。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

先輩の教員や職員の方々からご助言・ご助力をいただくことで何とか着任1年目を過ごすことができた。研究成果としては辛うじて論文を1本公刊した。授業では, 質問やコメントになるべく応答しようと試み, Web Classの活用もはかったが, 必ずしも十分なものではなかったので改善していきたい。

和泉田保一

(1) 研究成果

- ・著書(共著)

「都市法における市民参加手続と『行政的正義』」榎原秀訓編『行政法システムの構造転換 イギリスにおける「行政的正義」』(日本評論社・2014年) 274頁～300頁

• 論説

「漂着ごみの処理責任にかかる不作為の違法と海岸漂着物処理推進法の制定について」山形大学法政論叢60・61合併号153頁～191頁

「地方自治体と復興計画」山形大学法政論叢62号101頁～143頁

• 判例報告

大阪高判平成25年8月30日(平成25(行コ)1号)判例地方自治379号68頁(東北大学公法判例研究会,平成26年9月)

(2) 教育・地域連携等の活動

• 担当授業

行政法Ⅰ, 行政法Ⅱ, 行政法演習, 総合講座Ⅰ(「条例による地域政策」)・Ⅱ(「行政法」), 情報処理, 人文学部公務員対策講座(集団討論2コマを担当)

• 地域連携活動

[審議会等委員]

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員(継続)

山形県医療審議会委員～H26.9.30

山形広域環境事務組合エネルギー回収施設建設及び運営事業技術審査委員会委員(継続)

山形大学医学部倫理委員会委員(継続)

[外部研修講師]

国土交通省北陸地方整備局職員研修「法律」(7月)

長井市役所職員研修「政策法務」(～3月)

山形市役所職員研修「行政法」(9月)

山形市役所職員研修「政策法務」(9月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては, 科研研究のアウトプットとして3本の論文を公刊したが, これらの作業により, これまで漠然としか定まっていなかった研究方針に, 一定の具体性が見えてきた気がする。

教育活動については, 少数ながら優秀なゼミ学生に恵まれ, その就職実績からも一定の成果があったものとする。

社会活動としては, 地方自治体職員に対する政策法務研修を受け持つことが多くなり, 非常に労力を取られるようになった。今後, 取捨選択も必要と思われる。

岩田 浩太郎

(1) 研究成果

[編著書]

- 『村田紅花商人文書－翻刻と解説－』(岩田浩太郎・日下龍生編著, 村田町文化遺産活用地域

活性化事業実行委員会, A4版全174頁, 2015年3月[平成26年度文化庁文化芸術振興費補助金(文化遺産を活かした地域活性化事業)による発行]

[随想・報告]

- 「佐々木潤之介ゼミの一九八〇年代」(『日本歴史』第800号・記念特集〈歴史家とその時代〉, 59-65頁, 2015年1月)
- 「歴史文化を活かした地域活性化事業－地域に学ぶ, 学術研究を問い直す－」(やまがた地域社会研究所編『山形大学人文学部地域社会連携教員の活動』〈山形大学人文学部やまがた地域社会研究所ブックレット1〉山形大学人文学部, 6-11頁, 2015年3月)

[講演]

- 「村田商人文書の世界－『蔵の町』の紅花取引－」(平成26年度文化庁文化遺産を活かした地域活性化事業・村田町文化遺産活用地域活性化事業古文書調査報告会, 村田町文化遺産活用地域活性化事業実行委員会主催, 2015年3月14日, 於村田町民体育館〔宮城県村田町〕)
- 「九左衛門家屋敷の故事来歴－聞き取り成果報告－」(山形県やまがた社会貢献基金「柏倉家『聞き書き』情報アーカイブ」報告会, 2015年3月29日, 於柏倉九左衛門家長屋門上座敷)

[外部資金]

- 三菱財団法人人文科学研究助成「被災蔵古文書資料の保存整理と調査研究－宮城県柴田郡村田町の旧家文書を対象に－」(研究代表者), 研究期間2013年10月～2015年9月

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 基盤教育科目: 基幹科目「歴史にみる共生」(共生を考える), 教養セミナー「山形の歴史」
- 学部共通科目: キャリアガイダンス(進路指導委員として担当。山崎彰教授と共に)
- 専門教育科目: 日本経済史, 地域経済史, 日本経済史演習, 総合講座Ⅲ(経済経営。オムニバス方式のうち1回担当)
- 大学院教育科目: 日本近世史特論Ⅰ, 日本近世史特別演習, 歴史文化特別研究Ⅱ

[委員会活動, その他]

- 全学: 就職委員会委員(就活支援・企業訪問など), 研究活動の不正行為に関する告発受付窓口の責任者
- 学部: 進路指導委員会副委員長(就活支援スケジュールに関する全学就職委員会への意見書作成, 企業訪問など), 人事選考委員会委員(経済政策論), 高校訪問重点校(仙台第三高等学校)担当, やまがた地域社会研究所所員, 「学内規則の点検整備」に関する意見書(5名で共同作成, 人文学部教授会へ提出, 2014年9月22日付), 「学内規則の点検整備」に関する再意見書(同前, 同前, 2014年10月24日付)

[出張講義・展覧会企画・地域での報告会など]

- 山形県立酒田西高等学校への出張講義(2014年7月3日, 講義「紅花の経済史」)。
- 村田町歴史みらい館開館20周年記念企画展「くれないの花と村田商人－調度品と歴史資料－」への企画協力(歴史資料の選定と説明文の作成)。
- NPO法人柏倉家文化村主催: 山形大学人文学部日本経済史ゼミナール共同研究発表会「近代

における柏倉家の社会的活動について」「明治期における柏倉九左衛門家の金融活動」(2015年3月22日, 於柏倉九左衛門家長屋門上座敷)

〔社会活動〕

- 山形市社会教育委員 (副代表。2012年～)
- NPO 法人「柏倉家文化村」顧問 (2006年～)
- 奥羽史料調査会世話人 (2002年～。宮城県柴田郡村田町大沼正七家文書整理・目録作成・調査研究など)
- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員 (2012年4月～)
- 宮城県柴田郡村田町文化遺産活用地域活性化事業調査研究員 (2012年5月～2015年3月)
- 村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員 (2013年12月～)
- 山形県事業・やまがた社会貢献基金「柏倉家『聞書き』情報アーカイブ」調査研究員 (2014年6月～2015年3月)
- 柏倉九左衛門家・柏倉惣右衛門家所蔵古文書資料の整理保存・目録作成・調査依頼への対応
- 山形市の旧家及び東根市の郷土史家による歴史資料の相談への対応
- 京都市の旧家 (旧紅花問屋) からの問い合わせへの対応
- 宮城県村田町の旧家から村田町への古文書寄贈の相談への対応・支援
- 新潟県新潟市の旧家からの古文書調査依頼への対応
- 日本科学者会議山形支部事務局長 (2013年5月～)
- 『山形新聞』2014年6月2日付紙面「ふるさとの文化財189 県指定有形文化財 柏倉九左衛門家」への取材協力・校正
- YBC News every, 「中山・柏倉九左衛門家 紅花の栽培130年ぶりに復活」(7月16日オンエア) への取材協力・説明
- 声明「『安倍政権の高等教育政策』批判－山形大学の将来を憂える－」(2014年9月30日付, 日本科学者会議山形支部『山形支部つうしん』2014年10月2日号外)
- 「安倍政権の高等教育政策と改正学校教育法等にもとづく各大学の学内規則改正に関する声明」(2014年11月29日付, 緊急シンポジウム「大学は今－学校教育法・国立大学法人法と大学の現状」, 於東北大学金属材料研究所, 日本科学者会議ホームページ掲載)
- 『河北新報』2015年3月7日付宮城版紙面「紅花商人の商魂探る 古文書読み解く講演会」/ 河北新報 On-line News 同日「村田で古文書読み解く講演会」への取材協力
- 『河北新報』2015年3月23日付宮城版紙面「村田紅花商人活躍の軌跡紹介－山大教授が講演－」への取材協力

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究及び地域連携活動では, まず今年度も採択された三菱財団法人科学研究助成により, 宮城県柴田郡村田町の古文書資料の保存整理活動を継続した。また, 3年目となった文化庁の村田町文化遺産活用地域活性化事業調査研究員として同町職員とおこなった旧家調査の成果を, 史料集『村田紅花商人文書－翻刻と解説－』にまとめ刊行し, 報告会も開催した。同史料集では, 村田紅花商人の特徴を浮き彫りにする基本的な古文書91点を選定・翻刻し8章に編集・掲載すると共

に全点に平易な解説をつけ市民の歴史学習のテキストにもなるように工夫を試みた。今年度も村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員として「蔵の町並み」を中核とした町づくりに関与した。

一方、10数年調査を継続している山形県東村山郡中山町岡の柏倉家（本家・分家）に関わり、NPO法人柏倉家文化村の諸活動への協力をおこなった。今年度は同法人が「やまがた社会貢献基金」の採択を受け、柏倉家屋敷での生活や建物に関する故事来歴をご当主からお聞きし同屋敷の保存と利活用に資することを目的とした「聞き書きアーカイブ事業」を実施した。その報告会も開催した。

さらに、本年度人文学部で設立された「やまがた地域社会研究所」の所員となることを依頼され、同研究所のブックレットに従来私がおこなってきた「歴史文化を活かした地域活性化事業」の取り組みについてまとめ寄稿した。こうした取り組みに関するマスコミの各種取材や村田町歴史みらい館及び本学附属博物館での展示企画などにも協力をした。

教育活動では、大学院指導教員（主）として、東日本大震災で被災した岩手県大槌町出身の院生に対する指導を継続し、近世大槌商人に関する修士論文の指導と審査をおこなった。同院生と共に、8月に大槌町の現地調査を実施し、被災地の現状や文化財保存の状況を知り、同地域の歴史など学術研究の現代的意義と課題について学び認識を共有した（同院生は岩手県花巻市博物館に就職）。指導教員（副）としては、日本中世史専攻の院生2名に対して修士論文の指導・審査をおこなった。

委員会活動では、今年度も全学及び学部の就職関係の委員として、学部共通科目「キャリアガイダンス」（各界で活躍する卒業生など外部講師のオムニバス方式）の企画と実施担当、インターシップ指導・東北及び首都圏の企業訪問などの諸実務をおこなった。

社会活動では、日本の大学運営のあり方に根本的な影響をもたらす学校教育法及び国立大学法人法の「改正」に対して、日本科学者会議山形支部事務局長として、あるいは人文学部教授会構成員として、大学の内外で声明や意見書を執筆し発表・提出した。また、今年度も山形市社会教育委員や三浦記念賞選考審査会審査員を務め、山形市の生涯教育振興や産業界の懸賞に関わった。

小笠原奈菜

(1) 研究成果

[論文]

「ドイツにおける契約締結の際の情報提供義務違反における「残留信頼損害」の賠償—連邦通常裁判所2006年5月19日判決を手がかりとして—」山形大学法政論叢60/61合併号193-216頁（2015年3月）

「情報提供義務違反による損害賠償の範囲—ドイツにおける損害としての「高値取得」と減額規定の類推適用」山形大学紀要（社会科学）45巻1号21-43頁（2014年7月）

「情報提供義務による契約当事者の信頼の保護：損害としての「高値取得」」現代消費者法23号67-73頁（2014年6月）

[口頭報告]

「ドイツにおける契約締結の際の情報提供義務違反における「残留信頼損害」の賠償」2014年10

月 国際取引法研究会 (於 早稲田大学)

[その他]

「消費者法情報」現代消費者法25号89-91頁 (2014年12月)

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 基盤教育科目：判例を読もう (教養セミナー)
- 専門教育科目：契約法入門, 債権総論・担保物権, 民法演習, スタートアップセミナー (オムニバス方式) 総合講座Ⅱ (法律), 公務員試験対策セミナー
- 大学院

[地域連携]

山形県消費生活審議会委員

山形県個人情報保護運営審議会委員

山形県公益認定等審議会委員

消費者市民ネットとうほく検討委員会委員

山形県消費生活団体連絡協議会総会にて講演「適格消費者団体について」2014年5月21日

消費生活相談員養成講座講師 2014年9月13日

山形県税理士会主催研究会講師「民法(債権法)改正の現状 - 売主の担保責任を中心として -」
2014年9月8日

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成25年度に行なった口頭報告を公表し3本の論文を執筆することができた。論文執筆のために口頭報告が少なかったのが反省すべき点である。

地域連携について、消費者問題、とりわけ、唯一の空白地帯である東北地方に適格消費者団体を設立する活動を続けるとともに、地域の方々への理解を深めるための講演をすることができた。

教育について、卒論執筆学年の演習担当学生が11名となったが、勤勉で優秀な学生が多かったため相互の協力のもとに自発的に論文執筆に取り組める環境が作れた。

講義については、現在も続いている民法改正の議論も補足で入れつつも、混乱を避けるために現行法の基本知識を定着させることを意識して行なった。

金子 優子

(1) 研究成果

論文

『地域活性化のための市民活動量の計測とその寄与についての予備的考察』, 山形大学紀要 (社会科学) 第45巻第1号, pp59-77, 2014年7月

研究

「公益法人を巡る改革が公益法人の活動に及ぼす影響の定量的分析・評価に関する研究」(平成25-28年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題番号: 25380277)

(2) 教育・地域連携等の活動

担当科目：

行政学，行政学演習，公共政策とはなにか，日本国憲法，スタートアップセミナー

審議会委員：

東根市情報公開・個人情報審査会委員，村山公立病院情報公開・個人情報審査会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、「公益法人を巡る改革が公益法人の活動に及ぼす影響の定量的分析・評価に関する研究」（平成25-28年度科学研究費補助金 基盤研究C 研究課題番号：25380277）における研究第二年度の研究活動として，①平成24年経済センサス活動調査と特例公益法人概況調査の完全照合作業の実施，②社会福祉法人の集計に用いるための社会福祉法人名簿データの整備，③公益法人改革前後の活動状況の変化を把握するアンケート調査の実施及び調査結果の報告会の開催を行った。

教育活動については，プレゼンテーションソフトや映像ソフトを利用することにより視覚に訴えた分かりやすい講義となるように努めた。また，対話型の講義を行うように努め，学生の能動的学習を推進した。

亀井 慶太

(1) 研究成果

論文

"Pro-Competitive Effect, Division of Labor, and Firm Productivity." *Economics Letters*, (2014), Vol. 124 (1), pp. 132-135.

学会報告

"International Trade, Unemployment, and Firm Owners in a General Equilibrium with Oligopoly." 岡山大学現代経済セミナー，岡山大学，2014年11月26日。

"Trade Liberalization, Division of Labor, and Firm Productivity." 日本国際経済学会，京都産業大学，2014年10月26日。

"International Trade, General Oligopolistic Equilibrium, and Unemployment." 日本国際経済学会（関西支部），関西学院大学，2014年7月26日。

"International Trade, General Oligopolistic Equilibrium, and Unemployment." 日本経済学会，同志社大学，2014年6月14日。

"Trade Liberalization, Division of Labor, and Firm Productivity." 第8回若手マクロ経済学者のためのコンファレンス，千里阪急ホテル，2014年3月3日。

(2) 教育・地域連携等の活動

特に無し。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2015年4月に山形大学人文学部に着任しました。講義・研究・地域貢献などに精をだし、大学に貢献していきたいと思っています。

川村 一義

(1) 研究成果

- ・「概念としての国会運営と新制度論 審議の合理性をめぐって」『法学』第78巻第4号, 21-67頁(単著)
- ・「震災復興と地方議会の統合機能」『法政論叢』第62号, 201-252頁(単著)
- ・「政党制の変容と国会」日本選挙学会議事部会(早稲田大学)2014年5月;法律・政治研究会(本学)2014年6月(単独)
- ・「多様な国会論の政治学的検討と国会観の転換」科学研究費助成事業(若手研究B), 課題番号: 26780079

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当科目(全て本学)]

- ・政治過程論(前・後期)
- ・公共政策学
- ・公共政策学演習
- ・スタートアップセミナー
- ・総合講座Ⅰ(公共政策)(分担)

[社会連携]

- ・アカデミック・インターンシップ(宮城県仙台向山高等学校), 2014年7月

[その他]

- ・公務員対策セミナー統括責任者
- ・人文学部広報委員会委員(HP 部会)
- ・山形大学紀要(社会科学編)編集委員
- ・将来構想WG 地域公共政策課程部会員
- ・山形大学法学会運営委員(『山形大学法政論叢』編集担当)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

前年度は、後半になるほど様々なことが降りかかり、研究も公表できず、大学内外の方々に無用のご心配をおかけした。制度選択における経路依存性は、歴史的制度論の重要な概念であるが、時間を経るほど制度変化は起きにくくなるという理論は的を射ている。

そのような中、多くの先輩・同輩・後輩の先生方がご協力下さり、多少なりとも心に余裕が持てた。少しずつ「復帰」の歩みを進めていきたい。学会その他で心配して下さった方々に、この場を借りて、心よりのお詫びとお礼を申し上げたい。

北川 忠明

(1) 研究成果

[論文]

「レオン・ブルジョワにおける連帯・共和国・国際連盟構想（一）」, 法政論叢, 第60・61合併号, 平成26年12月。

「レオン・ブルジョワにおける連帯・共和国・国際連盟構想（二）」, 法政論叢, 第60・61合併号, 平成27年3月。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

基盤教育科目「政治と人間」

専門教育科目

「政治学入門」「政治理論」「政治理論演習」

大学院「現代政治論特論」「現代政治論特演」

[地域連携]

山形県明るい選挙推進委員会委員

長井市振興審議会会長

山形市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部会議懇話会座長

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、レオン・ブルジョワの連帯主義論をまとめる目処が見ついたことが成果。

國方 敬司

(1) 研究成果

研究成果平成25年度未報告分

【学会発表】

パネル・ディスカッション『イギリス農業革命の諸相：18世紀後半～19世紀中葉のイギリス農業』, 社会経済史学会第82回全国大会（東京大学）, 2013年6月2日

- ①「組織者としての趣旨説明」
- ②「農業構造の転換と脱工業化」

(2) 教育・地域連携等の活動

【教育】

・山形大学での授業

西洋経済史, 環境と経済, 西洋経済史・環境と経済演習, 基礎演習, 経済からみた環境との共生

・東北文教大学での授業

くらしと経済

- ・福島大学大学院博士後期課程での授業

イノベーション演習 (1コマ分)

【学会役員】

比較家族史学会理事, 社会経済史学会評議員

【講演等】

- ・「産業革命はなぜイギリスで始まったのか」, 鶴翔アカデミア2014, 鶴岡南高等学校, 平成26年9月19日 (金)
- ・「山形いきいき子育て応援企業『ダイヤモンド企業』知事対談」, 対談コーディネーター, 県庁知事室, 2015年2月24日 (火) 等

【審議会委員等】

山形新聞報道審査会委員, 三浦新七博士記念会評議員, 「子育てするなら山形県」推進協議会委員, 山形市都市振興公社評議員 等

(3) 研究・教育活動に関するコメント

仕事の配分についてうまくいかず, 論文執筆ができなかった。

コーエンズ久美子

(1) 研究成果

[論文]

「証券振替制度における口座管理機関の法的地位と担保権」山形大学紀要 (社会科学) 45号 (1) (平成26年7月)

「受託者の権限違反行為と救済」『信託の理念と活用』(トラスト未来フォーラム研究叢書) (平成27年3月)

「消費者法情報」『現代消費者法』26号 (平成27年3月)

「振替制度における証券および証券口座の担保化—「支配」による担保権の設定について—」法政論叢62号 (平成27年3月)

[研究報告]「証券口座の担保化」東北大商法研究会 (平成26年12月13日)

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業] 専門基礎演習, 商法 I, 商法 II, 商法演習 I, 国際取引マネジメント論 (理工学研究科)

[地域連携活動] 山形地方裁判所委員会委員, 山形地方最低賃金審議会公益委員, 山形県指定管理者選定委員会委員, 山形県建築士審査会委員, 寒河江市地域づくり推進委員会委員

(3) 研究・教育活動に関するコメント

証券振替制度における証券および証券口座の担保化について, 口座管理機関の法的地位の再検討およびユニドロアが策定したジュネーブ条約の規定を参照しつつ, 新しい担保制度の検討を行った。今後, アメリカ統一商法典第8編改訂過程の議論についてヒアリング調査, 分析をし, より具体的な提言をまとめて行きたい。

また、愛知大学、立命館大学の商法ゼミとの合同ゼミ合宿を立命館大学びわこ・くさつキャンパスで行った。初対面の学生同士がグループ作業を通して、集中的に学習し、交流もでき、極めて有意義だったと思う。

是川 晴彦

(1) 研究成果

「総合計画・実施計画と連動する有効かつ効果的な行政評価と進捗管理について—長井市における新・事務事業評価の意義と課題—」, 長井市受託研究成果報告書

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業]

ミクロ経済学, 応用ミクロ経済学, 公共経済学, 経済数学, ミクロ経済学演習
公共経済学特論, 公共経済学特別演習

[地域貢献活動など]

- 山形県（産業構造審議委員会委員, 入札監視委員会委員長, 指定管理者審査委員会の外部委員）
- 山形市（行財政改革推進懇話会座長）
- 天童市（農業振興審議会会長）
- 寒河江市（振興審議会会長）
- 長井市（行財政改革推進委員会委員長）
- 東北地方整備局入札監視委員
- 山形県長寿医療懇談会会長
- 東北税理士会集中講義の講師
- 天童商工会議所研修会の講師

(3) 研究・教育活動に関するコメント

科研費研究（中心市街地活性化に関する研究）では、玉野市や二戸市などの実態調査やヒアリングを行い、中心市街地活性化政策の課題に関する有益な知識や情報を得ることができた。また、不完全競争市場を対象とした課税理論の分析を継続して行った。受託研究では、従来の事務事業評価の課題や改善点を検討したうえで、長井市の新・事務事業評価において考慮すべき点などを提示した。

教育面では、前年度に引き続き、配布資料に記載する練習問題について内容の更新や記載数の増加を行い、受講生が講義内容を復習することに配慮した。大学院教育では、正指導教員として大学院生の指導を行った。

今野 健一

(1) 研究成果

- 著書（共著）：『基本判例1・憲法〔第4版〕』〔右崎正博＝浦田一郎編／法学書院〕（2014年5月）
〔版の変更に伴う加筆・修正；新規に2判例の解説を執筆〕
- 著書（共著）：『教育法の現代的争点』〔日本教育法学会編／法律文化社〕（2014年7月）〔「教師の教育権と市民的自由」の項目を執筆〕
- 学界回顧（単著）：「2014年学界回顧（教育法）」法律時報86巻13号（2014年12月）

(2) 教育・地域連携等の活動

①担当授業科目

- 学部専門科目：憲法Ⅰ，憲法演習Ⅱ，教育法，総合講座Ⅱ（法律）
- 基盤教育科目：日本国憲法，教養セミナー

②地域連携・高大連携活動

山形市情報公開・個人情報保護審査会委員，山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員

福島南高校にて出張講義を実施（10月）

9条を守ろう県民連絡会で講演（4月）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

年度を通じて「大学改革」に振り回されて疲弊した。研究面では、『法律時報』の「学界回顧」担当1年目ということで，要領を得るまで試行錯誤が続いた。教育面では，授業の工夫を凝らす努力を重ねているが，日暮れて道遠しの感が強い。

坂本 直樹

(1) 研究成果

【論文】

- Japan's revenue-expenditure nexus, Takimoto, T. and Sakamoto, N., Faculty of Economics Kyushu University Discussion Paper No.2014-3, pp.1-46, 2014.7.

【学会報告】

- 動学的多地域応用一般均衡モデルによる気候変動に伴う水害被害の計測，中畠一憲，森杉壽芳，森杉雅史，坂本直樹，土木計画学研究・講演集 CD-ROM, Vol.49, pp.1-10, 2014.6.
- Measurement of Use Value and Non-Use Value of Environmental Quality Consistent with General Equilibrium Approach, Sakamoto, N. and Nakajima, K., European Regional Science Association (ERSA) 2014, Paper #01105, pp.1-15, 2014.8.
- Measurement of Flood Damage due to Climate Change by Dynamic Spatial Computable General Equilibrium Model, Nakajima, K., Morisugi, H., Morisugi, M. and Sakamoto, N., European Regional Science Association (ERSA) 2014, Paper #00673, pp.1-27, 2014.8.
- 住民の地域への意識と非利用価値の大きさとの関連に関する研究 —救急救命の効果に着目して—，阪田和哉，中畠一憲，坂本直樹，瀧本太郎，生川雅紀，2014年度応用地域学会研究発表大会報告論文，pp. 1-12, 2014.11.

(2) 教育・地域連携等の活動

【担当科目】

財政学（前期），財政学（後期），地方財政論（前期），地方財政論（後期），財政政策論（東北学院大学経済学部，通年），環境経済（東北大学経済学部，通年）

(3) 研究・教育活動に関するコメント

財政学の研究として歳入と歳出の因果性に関する Discussion Paper を1編執筆し、費用便益分析に関連する研究4件を学会において報告した。

下平 裕之

(1) 研究成果

[翻訳]

- B・W・ベイトマン, 平井俊顕, M・C・マルクッツォ (編) 平井俊顕 (監訳) 『リターン・トゥ・ケインズ』東京大学出版会, 2014年 (第11章「ケインズと言葉の戦争」担当)

[研究会報告]

- テキストマイニング手法の経済学史への適用に関する報告 (第48・49回経済思想研究会, 東北大学)

(2) 教育・地域連携等の活動

- 教育活動

山形大学における担当授業:

[学部] 経済思想, 経済学史, 経済学史演習, 地域づくり特別演習, 公務員講座 (講義, 小論文指導)

[基盤教育] エコスタジアムプロジェクトを考えよう, 最上川の自然と文化, 震災復興学入門

非常勤: 羽陽短期大学 (経済学), 東北文教大学 (現代企業論)

- 地域連携活動

高校での出張講義等: 新庄北高校 (地域理解プログラム報告会でのコメンテーター)

山形財務事務所財務モニター

山形大学まちづくり研究所・山形仙台圏交流研究会への参加

山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長

最上地域政策研究所アドバイザー

山形県職員育成センター主査級研修講師

きらやか銀行中央営業部講演会講師

市民向け地域づくり講演会 (酒田市, 川西町)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、近年におけるケインズ経済学の理論的・政策的再評価に関する最新の論説集の翻訳を担当した。また研究会において引き続きテキストマイニングに関する共同研究を継続するとともに、最終年度となった科研費の研究成果に関する取りまとめを行った。

教育・地域連携活動については従来からの学内での活動に加え、村山総合支庁・最上総合支庁の地域連携事業に参画し、民間企業 (きらやか銀行) からの協力要請にも対応した。

尻無濱 芳崇

(1) 研究成果

【論文】

- 中澤 優介, 尻無濱 芳崇, 北田 皓嗣 (2014) 「アカウントビリティが開かれるとき：一関市国保藤沢病院の事例に見るアクターの複数性」『国民経済雑誌』210 (1) : 101-119.
- 荒井 耕, 尻無濱 芳崇, 岡田 幸彦 (2014) 「医療法人における責任センター別損益業績管理による財務業績改善に関する検証：非営利組織での管理会計の有効性評価」『会計プロGRESS』15 : 14-25.
- 尻無濱 芳崇 (2014) 「組織の公益志向と業績測定尺度の利用：介護事業を対象として」『メルコ管理会計研究』7 : 39-51.
- 荒井 耕, 尻無濱 芳崇 (2014) 「医療法人における予算管理の実態：質問票調査に基づく現状把握」『産業経理』74 (3) : 70-84.
- 荒井 耕, 尻無濱 芳崇 (2014) 「医療法人における予算管理の規模別実態：質問票調査に基づく分析」『一橋商学論叢』9 (2) : 2-19.
- 荒井 耕, 尻無濱 芳崇 (2015) 「医療法人における予算編成主導層と予算管理実態との関係性：予算編成方法による異同」『経理研究』58 : 401-414.

【学会報告】

- 尻無濱 芳崇 (2014) 「社会福祉法人における原価情報の利用」大阪市立大学 福祉イノベーション経営研究会第7回定例会 (2014年10月5日報告).

(2) 教育・地域連携等の活動

- 担当科目：管理会計（前期），管理会計（後期），会計学（ゼミスター），管理会計演習，スタートアップセミナー
- 地域連携活動：特になし

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動では、病院に関する研究が5本、介護事業に関する研究1本と多数の論文を発表できた。研究会では現在取り組んでいる経営者の能力と原価情報の利用に関する報告を行った。

教育活動については初めての立ちコマを担当した。授業評価はおおむね良好だったが、内容を詰め込みすぎた講義もあったので、改善していきたい。

杉野 誠

(1) 研究成果

【著書】

杉野誠, 森田稔, 岩田和之, 有村俊秀「二国間クレジット制度による経済効果・削減効果に関する分析」, 第2章, 有村俊秀編『温暖化対策の新しい排出削減メカニズム』, 早稲田大学現代政治経済研究所研究叢書41, 日本評論社, 2015年3月

【論文】

杉野誠, 有村俊秀「温室効果ガス排出削減の方法－経済的手法の役割」, 『環境情報科学』, Vol. 44, No. 1, 36-43, 2015年

【報告】

「日本の製造業の技術は後退したのか－CO₂排出量の要因分解－」, 環境経済政策学会2014年大会(法政大学), (2014年9月).

(2) 教育・地域連携等の活動

【担当科目】

(専門科目) 環境経済学

(基盤教育) 温暖化対策を考える

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては, 例年通り進めることができた。ただし, 論文の公表を来年以降となる点において努力する必要がある。

地域連携や社会連携は, 不十分で来年度取り組んでいく。

鈴木 明宏

(1) 研究成果

【論文】

- Easy Economic Experiment System を用いた経済実験の教育効果：囚人のジレンマと協調ゲーム, 山形大学紀要(社会科学編) 46 (1), 1-29, 2015.3. (西平他との共著)

【報告】

- 携帯電話を用いた簡易経済実験システムについて, 関西大学経済実験センター ワークショップ日本における経済実験環境のコンソーシアム化をめざして, 2015.3.

(2) 教育・地域連携等の活動

【担当科目】

(専門科目) ゲーム理論, 産業組織論, 意思決定論演習

(基盤教育) 現代の経済理論(工学部フレックスコース向け)

【社会連携等】

- 山形大学まちづくり研究所(山形大学認定研究所)メンバー
- 山形・仙台圏交流研究会メンバー

(3) 研究・教育活動に関するコメント

26年度は携帯電話を用いた簡易経済実験システムの構築・運用を行うと共に, 広島市立大学で教室実験を実施した結果を論文としてまとめた。実際の講義での運用にはプログラムの種類が足りないなど問題も残されているので, 今後も継続してシステムの改善を進め他の教員にも利用できるようにしていきたい。

砂田 洋志

(1) 研究成果

- ・「デマンド型交通に関する予備的考察—歴史, 特性, 課題, 及び分類—」, 山形大学紀要(社会科学), 第45巻第2号 ,pp.29-50,2015年2月.
- ・「三重県玉城町における地域公共交通システム—元気バスの調査報告—」, 山形大学人文学部研究年報, 第12号 ,pp.67-82,2015年3月.

(2) 教育・地域連携等の活動

【担当授業】

計量経済学, 統計学, 経済数学 (前期), 専門演習 (学部), 計量経済学特論・特別演習 (大学院)

【地域連携】

山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事として監事業務を行った。

山形・仙台圏交流研究会へ参加した。

山形県統計利用アドバイザーを引き続き任命されている。

山形県庁統計企画課主催の統計専門研修の講師として講義した。

山形県経済動向研究会に同会の構成員として参加した。

仙台向山高校とのアカデミックインターンシップの運営そして講義を学部目標評価委員会の委員として担当した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

中心市街地活性化の研究では, 大阪市で開催された研究会と視察へ参加した。

デマンド交通バスの研究では, 茨城県神栖市, 高知県四万十市, 山形県川西町, 同高島町, 長野県木曾町の事例を視察し, 報告書にまとめた。

教育関係では, 昨年度から経済数学 (前期) を担当した。講義では講義ノートを配布するなどして, 学生の理解を深めることに力を注いだ。

高倉 新喜

(1) 研究成果

- ・ジュシュア・ドレスラー=アラン・C・ミカエル『アメリカ捜査法』(指宿信監訳)(レクシスネクシス・ジャパン, 2014年) 735-820頁 [高倉新喜翻訳]
- ・高倉新喜「利益再審における再審開始決定と再審請求人の身柄」『山形大学法政論叢』60・61合併号(2014年) 59-102頁
- ・高倉新喜「最新判例演習室—控訴審判決中未決勾留日数算入部分が破棄された事例」『法学セミナー』712号(2014年) 134頁
- ・高倉新喜「最新判例演習室—第1審の無罪判決を事実誤認で破棄した控訴審判決の当否」『法学セミナー』715号(2014年) 152頁
- ・高倉新喜「刑事裁判例批評(271) 警察官らの違法な取調べにより直接得られた第1次的証拠である被告人の自白のみならず, 第2次的証拠である覚せい剤およびその鑑定書等をも違法取

集証拠として排除した事例』『刑事法ジャーナル』41号（2014年）230-234頁

- 高倉新喜「単純一罪の事案における攻防対象論の適用範囲」『新・判例解説 Watch』15号（2014年）173-176頁
- 高倉新喜「最新判例演習室—裁判所が主張上の対立点を争点として提示する措置をとる義務」『法学セミナー』718号（2014年）106頁
- 高倉新喜「最新判例演習室—勾留の必要性」『法学セミナー』721号（2015年）116頁
- 高倉新喜「包括一罪を構成する一連の暴行による傷害の訴因の特定」『判例セレクト2014 [Ⅱ]（法学教室別冊付録）』（2015年）39頁

(2) 教育・地域連携等の活動

- 専門科目：刑事訴訟法
刑事法基礎
刑事訴訟法演習
法と裁判
総合講座Ⅱ（刑事法3・刑事法4）
- 基盤教育：裁判員制度—刑事司法との共生を考える
- 地域連携
出張講義：山形県立鶴岡南高校（テーマ：「法律学って、何やるの？」）
山形県介護保険審査会委員
山形県精神医療審査会委員
山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
山形県弁護士会綱紀委員会予備委員
教職員不祥事防止に係る有識者会議座長

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動においては、法学セミナーの「最新判例演習室」の執筆を担当し、山形大学法政論叢の北野通世教授退職記念号に寄稿できた。教育活動においては、刑事訴訟法演習での現地学習として山形少年鑑別所および山形刑務所の見学を実施することができた。

高橋 和

(1) 研究成果

学会報告

「ヒトの国際移動に関する研究の動向と課題」

北東アジア学会第20回記念学術研究大会 2014年9月21日

日本大学三島キャンパス

(2) 教育・地域連携等の活動

(教育)

- 専門科目 国際関係論, 国際公共政策, 地域の国際化, 国際関係論演習を担当 (地域連携等)
- 出張講義 山形北高等学校
- 山形県労働委員会公益委員
- 山形労働局 最低賃金審議会公益委員
- 山形県公立大学法人評価委員
- 山形県障がい者施策推進協議会学識委員など

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動では, 科学研究費基盤研究 (B) 「ヒトの国際移動の自由と管理」のプロジェクト研究を行い, 研究会を開催した。また北東アジア学会において「ヒトの国際移動」に関するセッションを企画し, アジアとヨーロッパの移動に関する比較研究の発表を行った。

教育活動では, クリッカーを使った双方向対話型の授業を継続しておこなっているが, さらにそれぞれの授業において, 体験型の授業を取り入れて, より主体的な学習ができるように試みた。

高橋 良彰

(1) 研究成果

「翻訳語「債権」の成立」2014年7月『山形大学紀要 (社会科学)』第45巻第1号 (pp.45-57)

「明治民法典はなぜ別冊で制定されたか」2015年2月『山形大学紀要 (社会科学)』第45巻第2号 (pp.75-87)

「司法省法学校における日本民法草案財産編講義とボアソナード」2015年3月法政大学ボアソナード・梅謙次郎没後100年企画・出版実行委員会編集『BU100ボアソナード・梅謙次郎没後100周年記念冊子上巻 報告集』(pp.70-104)

(2) 教育・地域連携等の活動

金融法入門 (前期), 民法総則・物権総論 (前期ゼメ), 相続法 (後期), 民法演習Ⅲ (通年), 基盤教育科目基幹科目・共生 (後期), 進路指導委員としてインターンシップの添削など。また, 紀要の編集責任者, 公開講座の企画委員として活動した。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2014年1月に足を骨折したために学生を含め様々な方々に迷惑をおかけした。このため外に出る活動はできなかったが, 研究成果としてはいくつかの原稿をまとめることができたことは存外のことであった。

溜川 健一

(1) 研究成果

[論文]

- Demand Uncertainty, Inventory and Business Cycles, Journal of Business Economics and Management

Volume 15(4), pp.664-683.

- A closed-form analysis of anticipated monetary policy, *Economia*, Vol.15, No.2, pp.155-161.
- A Time-Series Analysis of the Effects of Output Forecast Shocks on the Japanese Economy, *The Japanese Political Economy*, Vol.40(2), pp. 76-90. (Corrigendum, 2014, Vol.40 (3-4) , pp.117-123.)
- Macroeconomic Contribution of the Cloud Computing System to the Japanese Economy, *The Review of Socionetwork Strategies*. Vol. 8(2), 101-117. (鷗飼康東・千田亮吉との共著) (Corrigendum, 2015, Vol.9(2), pp.75-84.)

[学会報告]

- Macroeconomic Policy for Stagflation, 日本金融学会2014年度春季大会。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

(専門科目) マクロ経済学, 応用マクロ経済学, マクロ経済学論演習
(基盤教育) スタートアップセミナー, 教養として知っておきたい経済

[地域連携等]

特になし

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究・教育・地域活動全てにおいて、まだまだ未熟であると感じている。納得できる成果を残せるよう精進したい。

戸室 健作

(1) 研究成果

[著書]

- 柴田努・新井大輔・森原康仁編『図説 経済の論点』旬報社, 2015年1月
戸室担当: 「労働組合とは何か」156-159頁, 「地域をむしばむ貧困 都道府県別貧困率とワーキングプア率」176-177頁。

[論文]

- 「自治体委託労働者の労働実態と労働組合の取り組み」『山形大学紀要 (社会科学)』45巻1号, 2014年7月, 203-217頁。

[学会報告]

- 社会政策学会第129回大会の共通論題「社会政策としての労働規制—ヨーロッパ労働社会との比較—」にて, 「コメント: 雇用政策・労使関係の観点から」と題して報告兼コメントを行う (2014年10月11日10:00~17:30。岡山大学)。

[その他]

- 「労働組合と協同組合をとりまく社会」『寄付講座講義録2013』日本労働組合総連合会山形県連合会, 2014年, 99-108頁。
- 「非正社員増大の実態と背景」『山形の魅力再発見パート12』山形大学都市・地域学研究所,

2015年1月, 18-22頁。

- 「地域住民からの様々な相談に応える～連合山形, 山形県労福協の取り組み～」『連合山形を中心とする地域活動の展開—山形県内の地域活動に関する共同調査研究プロジェクト報告書一』山形県経済社会研究所・連合総合生活開発研究所, 2015年3月, 7-11頁。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 専門教育科目: 社会政策論, 社会保障論, 労働と生活, 社会政策論演習, 卒業論文指導, 法経政策総合講座Ⅲ (オムニバス1回担当)
- 基盤教育: スタートアップセミナー
- 大学院: 社会政策特論 I

[委員会活動等]

- 人文学部教育委員会委員 (法経政策学科教務担当, 法経政策学科アドバイザー主任)
- 人文学部法経政策学科運営委員

[学会活動]

- 社会政策学会秋季大会企画委員会委員
- 日本労働社会学会幹事 (研究活動担当)
- 社会政策学会第129回大会の自由論題「労使関係」のセッションで座長を担当する (2014年10月12日 12:50~14:50。岡山大学)

[地域連携等]

- 連合山形総研・連合総研「山形県内の地域活動に関する共同調査研究プロジェクト」調査研究委員会委員
- 第5回地域ユニオン・青年ユニオン東北ブロック交流会にて講演。講演テーマは「非正社員増大と労働組合」(2014年6月21日13:15~14:15。宮城県鳴子温泉ホテル亀屋にて)
- 山形県立新庄北高校生1名の課題学習 (研究テーマは「経営と道徳のつり合いについて」) についての指導助言 (2014年7月30日 13:00~14:20。山形大学人文学部42演習室)
- 2014年度山形大学都市・地域学研究所公開講座にて講演。講演テーマは「非正社員増大の実態と背景」(2014年9月20日13:00~14:30。山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センター演習林にて)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究においては, 特に社会政策学会の共通論題で報告兼コメントを行うという大役を何とか果たすことができた。教育においては, ゼミの新しい試みとして合同合宿を行った。福島大学, 東北学院大学, 埼玉大学, 立教大学の学生たちと, 互いの研究内容について報告・討論をし合うという経験は, ゼミ生たちに良い学問的刺激になったのではないかと。

中島 宏

(1) 研究成果

- 論文：「フランスにおける Baby Loup 事件についての予備的素描」山形大学法政論叢60=61号（2014年12月）129～152頁
- 判例解説：「『団体規制法』に基づく観察処分 of 合憲性」平成25年度重要判例解説=ジュリスト1466号（2014年4月）21～22頁
- 学界回顧：「2014年学界回顧・フランス法」法律時報86巻13号（2014年12月）296～298頁
- 実践報告：「教養科目『日本国憲法』の実践例と課題について」山形大学高等教育研究年報9号（2015年3月）16～20頁
- 口頭報告：「フランスにおける Baby Loup 事件：労働と宗教」憲法理論研究会夏季合宿研究会（2014年8月24～26日，岩手県盛岡市清温荘）

(2) 教育・地域連携等の活動

[教育]

- 基盤：日本国憲法，教養セミナー「映画で考える憲法問題」
- 専門：法経政策専門基礎演習，憲法Ⅱ，憲法Ⅲ，憲法演習Ⅰ，公務員対策セミナー
- 大学院：人権論特論Ⅰ
- 非常勤：東北文教大学「くらしと憲法」，福島大学「憲法Ⅰ（人権）後半」，東北文教大学短期大学部「日本国憲法」
- 表彰：平成26年度基盤教育ベストティーチャー賞（教員推薦）

[地域連携]

- 審議会：山形市個人情報保護制度運営審議会副会長，天童市情報公開・個人情報保護審査会委員
- 講演：①西置賜地区平和センター学習会「集団的自衛権限定的容認論の問題点」（2014年6月5日，長井市民文化会館），②教職員組合山形地区支部学習会「集団的自衛権と7月1日閣議決定の意味」（同年7月30日，山形国際ホテル），③山形県平和センター平和セミナー21「7月1日閣議決定の意味と日米ガイドライン」（同年9月17日，大手門パルズ），④飽海地区憲法と平和を考える講演会「7月1日閣議決定の意味と日米ガイドライン改定」（同年12月4日，酒田市総合文化センター），⑤高教組第46回教育闘争推進討論集会「最近の国立大学改革について」（同年12月13日，大手門パルズ）
- オープンキャンパス2014模擬講義：「もののけ姫と憲法」（2014年8月2日）
- 公開講座：第1回「ヘイトスピーチ規制と表現の自由」（2014年10月2日）
- 出張講義：山形県立山形中央高校（2014年12月17日）
- 取材協力：読売新聞2015年3月15日関西版「市有地に神社 大阪市 VS 住吉さん」

(3) 研究・教育活動に関するコメント

本年度も様々な仕事をする事ができた。東北文教大での非常勤職は，得られる利益と失われる利益等の諸事情を比較衡量し，本年度をもって辞することにした。また，恥ずかしながら基盤

教育について賞を頂いた。応募に尽力して頂いた先生方に深く感謝申し上げたい。

西岡 正樹

(1) 研究成果

「累犯加重と常習犯について (1)」法政論叢60・61合併号 (2014年) 103-128頁

(2) 教育・地域連携等の活動

〔教育〕

担当授業科目

専門教育：スタートアップセミナー，刑事法基礎（刑法担当），総合講座Ⅱ（法律），刑法Ⅰ，刑事政策，刑法演習Ⅱ

〔地域連携等〕出張講義 東北学院中学・高等学校

(3) 研究・教育活動に関するコメント

前年度同様に諸先生方の協力の下で教育・研究活動に専心することができた。教育活動としては，刑法演習Ⅱにおいて置賜学院への施設見学を行った。研究活動としては，専門とする刑事責任論に関して，科研費補助金を得て，累犯加重規定と責任概念に関する研究を継続して行った

西平 直史

(1) 研究成果

西平：制御理論を用いた在庫管理モデルの一解析－リードタイムが変動する場合，山形大学人文学部研究年報，(12) 43-51

(2) 教育・地域連携等の活動

教育：学部 経営システム，応用情報処理，情報・システム論演習

基盤教育 情報処理

大学院 経営システム特論

地域連携活動 山形仙台圏交流研究会

(3) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では，制御理論を用いた在庫管理モデルの解析についての研究を行い，その成果を論文として発表した。

教育面では，学部，基盤教育，大学院の授業を担当した。大学院生の1年生2名の研究指導も行った。地域連携活動では，山形仙台圏交流研究会に参加した。

藤田 稔

(1) 研究成果

「判例評釈 日本音楽著作権協会（JASRAC）事件審決取消訴訟東京高裁判決 - 原告適格

と実質的証拠法則－」2014年7月 山形大学紀要（社会科学）第45巻第1号129-151頁
「判例評釈 山形県発注工事の鋼鉄製橋梁談合に関する市民オンブズマン山形県会議による山形県知事に対する住民訴訟」2014年12月 山形大学法政論叢第60・61合併号271-284頁

(2) 教育・地域連携等の活動

「経済法1」「経済法2」「経済法演習」「法的なものの考え方と知的財産権(法学)」「専門基礎演習」と「総合講座1(公共政策)」の1コマを担当。(その他、東北学院大学で、非常勤講師を務めた。) 独占禁止政策協力委員として、独占禁止政策のあり方について、公正取引委員会に対して、意見を述べた。

山形県弁護士会綱紀委員会委員として、弁護士倫理の維持に協力した。

日本経済法学会理事として、学会の運営に従事した。

東北経済法研究会で座長として研究を行った。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

洪 慈乙

(1) 研究成果

洪 慈乙稿「リース取引に関する会計の基本問題」、『山形大学紀要』第45巻第1号、pp. 79-90、2014年7月。

(2) 教育・地域連携等の活動

- ・学部担当授業
- ・専門科目：会計学、財務会計、会計学演習
- ・基盤教育：企業会計入門・大学院授業：比較会計学特論・特別演習、企業経営特別研究
- ・地域連携
- ・まちづくり研究会：伊丹商店街および高松商店街見学、インタビュー調査
- ・米沢興譲館高等学校出張講義

(3) 研究・教育活動に関するコメント

松本 邦彦

(1) 研究成果

(2) 教育・地域連携等の活動

○教育：専門教育「日本外交論」、「日本政治論」、「地域づくり特別演習(二)」(山本匡毅先生と)、「総合講座1(公共政策)」。基盤教育「スタートアップセミナー」、「基幹科目」共生 ○地域連携：上記「地域づくり特別演習(二)」では、学生の研修にあたっては山形市内の市民団体に多大な御協力をいただきました。

2013年度から山形市コミュニティファンド評議委員。

2015年3月と金山町にて「国際交流の集い」講師。

安田均先生が世話人をされている山形仙台圏交流研究会に参加。○出張講義：2014年10月に福島県立橋高校へ。

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2012年度から三ヶ年計画の科研費の最終年度として、地方議員に対する意識調査をおこないました。2015年度中の発表をめざしています。

丸山 政己

(1) 研究成果

- (論文)「国連安全保障理事会による「国際立法」とその実施に関する一考察—国際立憲主義の観点から—」『山形大学法政論叢』第62号(2015年3月)145-199頁
- (翻訳協力)「安全保障理事会決議二一七八(イスラム国等への外国人テロリスト戦闘員関係)」奥脇直也・岩沢雄司編集代表『国際条約集【2015年版】』(2015年3月)

(2) 教育・地域連携等の活動

- 担当科目:国際法, 国際人権法, 国際法演習, 法経政策専門基礎演習, 総合講座I(公共政策), 国際法入門(基盤教育)
- 山形大学人文学部公開講座『グローバル世界と日本はどうつきあうか』「第4回 南極海捕鯨事件から見えてくるもの」(2014年10月)
- 福島県立喜多方高校出張講義「国際法って何?—捕鯨問題を通して考えてみよう—」(2014年10月)
- 福島県立橋高校出張講義「国際法って何?—捕鯨問題を通して考えてみよう—」(2014年10月)

(3) 研究・教育活動に関するコメント

平成26年度は、前年度に法経政策学科教務委員を務めたご褒美(?)として「準サバティカル」(星野前学科長の命名)を認めていただき管理運営業務を免除されたため、比較的、研究に打ち込むことができた(比較的というのは、改組関連で…以下略)。科研費の成果として、上記論文を一応まとめることができたが、折角の機会を十分に活かしきれたとは言い難い。教育面で特筆すべき点は、ゼミで初めて卒業論文(2名)を指導した。必須としているゼミ論文との差別化・基準設定について若干の課題が残されたと言えようか。社会連携では、2014年3月に下された国際司法裁判所の判決を素材として、一般の方や高校生に国際法を身近に感じてもらえるような講義をそれなりの時間をかけて準備した。印象に過ぎないが、殊の外、関心をもってもらえたように思われる。

村松 怜

(1) 研究成果

(論文)

- ・「『増税なき財政再建』へ至る道」, 井手英策・小西砂千夫・諸富徹編『日本財政の現代史 第1巻 土建国家の時代1960～1985』(有斐閣)所収, pp.51-74
 - ・「『近代財政』の再検討」, 『三田学会雑誌』107巻4号(2015年1月)
- (学会報告)
- ・「日本占領期税制史研究」, 政治経済学・経済史学会春季総合研究会, 2014年6月28日
 - ・「『増税なき財政再建』へ至る道」, 日本財政学会第71回大会, 2014年10月26日

(2) 教育・地域連携等の活動

(3) 研究・教育活動に関するコメント

2015年4月に着任のため、「教育・地域連携等の活動」は該当なし。

安田 均

(1) 研究成果

[論文]

- ・博士論文「生産的労働概念の再検討とその現代的意義」(九州大学経済博甲第189号,2015年3月25日)。

[報告]

- ・「生産的労働の理論的位置づけ」SGCIME 研究合宿(2014年8月8日,八王子セミナーハウス)。

[その他]

解説記事「経済指標の解説」(連合山形『春季生活闘争方針』,2015年2月)。

(2) 教育・地域連携等の活動

[担当授業科目]

教育：市場と人間の生活(人間を考える), 教養セミナー「格差を考える」

専門：経済原論, 市場と組織, 経済原論演習, 学部共通科目「地域社会論」, 公務員講座(春休み, 論作文2コマ), 宮城学院女子大学「経済社会特論」。

大学院：株式会社論特論, 株式会社論特別演習, 修士論文指導。

[地域連携等]

- ・連合山形総研・連合総研「山形県内の地域活動に関する共同調査研究プロジェクト」調査研究委員会委員
- ・山形県村山総合支庁との共同研究会「山形仙台圏交流研究会」幹事。関連して県より「地域課題解決型実践活動モデル事業」(対象高瀬地区)を受託し, 現地事前調査会, 紅花祭り, 高瀬地区学生動員に伴うワークショップ, 現地成果報告会に参加。
- ・出張講義：山形県立山形南高校(2014年9月17日), 同新庄南高校(同9月17日)

[委員会活動等]

- 紀要社会科学編編集委員
- 人文学部法経政策学科運営委員
- 基幹科目ディレクター, 同会議および基盤教育評価改善委員会

(3) 研究・教育活動に関するコメント

最近, 講義はオンラインでなく, 教室でのレスポンスカードを用いての復習・確認, 質問・回答に時間を割くよう務めている。学外団体から要請される経済指標等の解説記事の執筆, あるいは共同調査への参加は研究の間口を広げてくれるので, 時間の許す限り引受けたい。

山口 昌樹

(1) 研究成果

受賞

Best paper award for a WBI journal (International review of business research papers) at Annual Tokyo Business Research Conference, 15-16 December, 2014 Yamaguchi, M., Participation of Japanese regional Banks in International Syndicated Loans : Lending behavior and explanatory factors

論文

- 「欧州銀行における自己資本比率の変動」『経済学論纂』, 中央大学経済学研究会, 第55巻第5,6合併号, pp.229-244, 2015年

寄稿

- 「地方銀行による外貨建て貸出の実態」『金融ジャーナル』2014年10月号, pp.36-39

Proceeding

- Participation of Japanese regional Banks in International Syndicated Loans : Lending behavior and explanatory factors, WBI Conference Proceedings, Tokyo Conference 2014

学会報告

- 「地方銀行の外貨建て貸出-構図と変動要因-」日本金融学会2014年春季大会, 慶應義塾大学, 2014年5月24日
- Infrastructure Financing in Indonesia and the Role of Japanese Banks : Observations through a Network Analysis, The 14th International Convention of the East Asian Economic Association, Chulalongkorn University, Bangkok, November 1-2, 2014
- Participation of Japanese regional Banks in International Syndicated Loans : Lending behavior and explanatory factors, Annual Tokyo Business Research Conference, Waseda University, 15-16 December, 2014
- Participation of Japanese regional Banks in International Syndicated Loans : Lending behavior and explanatory factors, SIBR-UniKL 2015 Conference (Kuala Lumpur) on Interdisciplinary Business and Economics Research, 16th-17th February 2015, Kuala Lumpur.

学会討論者

- 日本金融学会2014年秋季大会, 山口大学, 2014年10月18日

国際金融パネル「邦銀のアジア進出」

- The 14th International Convention of the East Asian Economic Association, Chulalongkorn University, Bangkok, November 1-2, 2014, Rina Indiatuti and Maman Setiawan, Cost Efficiency and Market Power Effect in the Indonesian Banking Industry

研究会報告

- Participation of Japanese regional Banks in International Syndicated Loans : Lending behavior and explanatory factors, 経済産業研究所, 企業金融・企業行動ダイナミクス研究会, 2015年3月6日

(2) 教育・地域連携等の活動

教育

- 担当授業：スタートアップセミナー, 金融論, 国際金融論, 証券経済論, 国際金融論演習

(3) 研究・教育活動に関するコメント

腰を据えて研究に打ち込むことができた。人文学部の教職員の方々に感謝したい。

山本 匡毅

(1) 研究成果

〈書籍〉

山本匡毅 (2014) 「第4章第二節 東北——震災復興への足取り」, 竹内淳彦・小田宏信編著『日本経済地理読本』東洋経済新報社

山本匡毅 (2014) 「第12章 東日本大震災のインフラ被害による中小製造業への影響と地域政策の課題—サプライチェーン問題を中心に—」, 塩見英治・谷口洋志編著『現代リスク社会と3・11複合災害の経済分析』中央大学出版部

山本匡毅 (2015) 「第4章 航空機産業のグローバルな生産立地と国内産業集積の形成」, 法政大学比較経済研究所・近藤章夫編『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社

〈論文〉

小田宏信・遠藤久美子・山本俊一郎・山本匡毅 (2014) 「台東・墨田産業集積の伝統と革新——第60回大会エクスカージョン総括——」『経済地理学年報』第60巻第3号

山本匡毅 (2014) 「変化するマーケットと山形県の地域産業政策」『山形県の社会経済2014』第27号

山本匡毅 (2014) 「地方圏のモノづくり企業の事業環境変化への対応—山形県を事例として—」『新産業政策研究かわさき』第12号

〈学会発表〉

山本匡毅「医療機器産業の特性と異業種からの参入過程——機械製造業を事例として——」第52回産業学会全国研究会, 2014年6月14日, 九州大学

(2) 教育・地域連携等の活動

〈学部授業〉

地域政策論, 地域づくり特別演習, 地域政策論演習

〈基盤教育〉

スタートアップセミナー, 基礎から産業・中小企業を考える (経済学)

〈地域・社会連携〉

山形・仙台圏交流研究会メンバー

一般財団法人機械振興協会経済研究所「健康・福祉機器市場における中堅・中小企業の販路拡大策」研究委員会委員

山形県村山総合支庁「地域課題解決実践活動モデル事業実態調査業務委託」の事務業務及び学生指導

長井市ながい市民未来塾講師

〈出張講義〉

山形県立上山明新館高校 (テーマ: 地域づくりを通じたボランティアへの気づき)

〈テレビ出演〉

NHK 山形「山形ディスティネーションキャンペーンについて」

山形放送「衆議院選挙公約の比較について」

〈講演〉

東北航空宇宙産業研究会他7回

(3) 研究・教育活動に関するコメント

大学2年目で一定の教育と研究を行うことができた。また地域・社会連携も少しずつ進められた。引き続き、質の高い教育の実施と研究成果、及び地域・社会連携の実践を行いたい。